

河内長野市遺跡調査会報Ⅹ

西 浦 遺 跡

市道西浦線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

1995年3月

河内長野市遺跡調査会

序 文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、高野街道に代表される和歌山や奈良へ向かう南河内の交通の要衝として発展してきた町です。

このため市内には数多くの文化財が残されています。

このような河内長野市も大阪市内への通勤圏に位置しているため住宅都市として近年、開発の波がおしよせてきています。

開発がもたらす文化財や自然に対する影響も大きいものがあります。特に、埋蔵文化財は開発と直接に結び付く大きな問題です。

遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージを現在の市民、更には未来の市民へ伝えてゆかなければなりません。

本書は発掘調査の成果を収録しています。先人達のメッセージの一部でも理解するための資料として活用していただければ幸いです。

これらの発掘調査に協力していただきました施主の方々の埋蔵文化財への深いご理解に末尾ながら謝意を表すものです。

平成7年3月

河内長野市遺跡調査会
理事長 中尾謙二

例 言

1. 本報告書は平成4年度・平成5年度・平成6年度に河内長野市遺跡調査会が河内長野市から委託を受けて実施した西浦遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査費については全額河内長野市が負担した。
3. 調査は、本市教育委員会社会教育課文化係尾谷雅彦・鳥羽正剛を担当者として実施した。
4. 調査にかかる事務は調査会事務局長松垣孝康が担当した。
5. 本書の執筆は尾谷雅彦が行なった。
6. 編集は尾谷が担当し橋本裕子が補助した。本書の文責は尾谷が負うものである。
7. 発掘調査及び内業整理については下記の方々に参加を得た。
池田 武・嘉悦真紀子・喜多順子・久保八重子・古島亮介・杉本祐子・鈴木(明地)
奈緒美・田中良明・田川富子・中尾智行・中西和子・中野雅美・中村嘉彦・林 和宏・
東田幸子・東原美佳・福島里浦・藤井美佐子・古池陽子・松尾和代・松村佳映・牟田口
京子・写測エンジニアリング株式会社・株式会社島田組
8. 調査の実施に関しては下記の方々の協力を得た。(敬称略)
栗田 薫・田中久也・屋納照雄・加賀田地区自治会・大和興産株式会社・河内長野市建設部上木課
9. 本調査の記録はスライドフィルム等でも記録しており、広く一般の方々に活用されることを望むものである。

凡 例

1. 本報告書に掲載されている標高はTPを基準としている。
2. 土色は新版標準土色帖1990年度版による。
3. 平面測量基準は国家座標第VI系による5mメッシュを基に実施したものである。
4. 図中の北は座標北である。
5. 掲載の遺物の縮尺は土器1/4、石器2/3を基準に各遺物の状況により、縮尺は替えている。
6. 遺構実測図の縮尺は、1/30・1/40・1/60・1/300とした。
7. 遺物実測図の番号と写真図版の番号は共通する。
8. 土師器・土師質土器・縄文土器の断面は白抜き、その他は黒塗りとした。
9. 本書の遺構名は下記の略記号をもちいた。
SB…建物 SD…溝 SK…土坑 SN…埋桶 SU…集石 SX…その他
SP…ピット

目 次

序文	
例言	
凡例	
挿図目次	
表目次	
図版目次	
付図目次	
第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 位置と環境	5
1. 位置	5
2. 歴史的環境	5
第2章 調査の結果	7
第1節 第1調査区	7
1. 概略	7
2. 遺構と遺物	7
第2節 第2調査区	22
1. 概略	22
2. 遺構と遺物	22
第3節 遺物	32
1. 土師器・須恵器	32
2. 中近世土器	33
3. その他	33
第3章 まとめ	35
1. 第1調査区	35
2. 第2調査区	35
3. 最後に	35

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 河内長野市遺跡分布図 (1/40,000)	2
第3図 調査区位置図 (1/5,000)	5

第4图	第1調査区東壁土層断面実測図 (1/40)	7
第5图	S B 1 遺構実測図 (1/60)	8
第6图	第1調査区遺構配置図 (1/300)	9~10
第7图	S B 2 遺構実測図 (1/60)	11
第8图	S B 3 遺構実測図 (1/60)	11
第9图	S D 2 遺構断面実測図 (1/40)	12
第10图	S D 3 遺構断面実測図 (1/40)	12
第11图	S D 4 遺構断面実測図 (1/40)	12
第12图	S D 5 遺構断面実測図 (1/40)	12
第13图	S D 6 遺構断面実測図 (1/40)	12
第14图	S K 1 遺構断面実測図 (1/40)	13
第15图	S K 2 遺構実測図 (1/30)	13
第16图	S K 2 出土遺物実測図 (1)	14
第17图	S K 2 出土遺物実測図 (2)	15
第18图	S K 2 出土遺物実測図 (3)	16
第19图	S K 3 遺構断面実測図 (1/40)	16
第20图	S K 4 遺構実測図 (1/30)	17
第21图	S K 4 出土遺物実測図	17
第22图	S K 5 遺構実測図 (1/30)	17
第23图	S K 5 出土遺物実測図	18
第24图	S K 6 遺構実測図 (1/30)	18
第25图	S K 6 出土遺物実測図	19
第26图	S K 7 遺構実測図 (1/30)	19
第27图	S K 7 出土遺物実測図	19
第28图	S K 8 遺構断面実測図 (1/40)	19
第29图	S K 8 出土遺物実測図	19
第30图	S P 1 出土遺物実測図	20
第31图	S P 4 出土遺物実測図	20
第32图	S P 5 出土遺物実測図	20
第33图	第1調査区包含層出土遺物実測図 (1)	20
第34图	第1調査区包含層出土遺物実測図 (2)	21
第35图	S B 4 遺構実測図 (1/60)	22
第36图	S B 5 遺構実測図 (1/60)	22
第37图	第2調査区遺構配置図 (1/300)	23~24
第38图	第2調査区北東壁・南東壁土層断面実測図 (1/40)	25

第39図	S B 6 遺構実測図 (1/60)	26
第40図	S B 7 遺構実測図 (1/60)	27
第41図	S B 8 遺構実測図 (1/60)	27
第42図	S K 9 出土遺物実測図	28
第43図	S K 9 遺構断面実測図 (1/40)	28
第44図	S K 10遺構実測図 (1/30)	28
第45図	S K 11出土遺物実測図	28
第46図	S K 11遺構断面実測図 (1/40)	28
第47図	S K 12遺構断面実測図 (1/40)	28
第48図	S K 13遺構断面実測図 (1/40)	28
第49図	S K 14遺構断面実測図 (1/40)	29
第50図	S K 15遺構断面実測図 (1/40)	29
第51図	S N 1 遺構実測図 (1/30)	29
第52図	S U 1 出土遺物実測図	30
第53図	S U 1 遺構実測図 (1/30)	30
第54図	S U 2 遺構実測図 (1/30)	30
第55図	S U 3 遺構実測図 (1/30)	30
第56図	第2調査区包含層出土遺物実測図	31

目 次

第1表 河内長野市遺跡地名表

図 版 目 次

図版1	遺構 第1・2調査区	調査区全景
図版2	遺構 第1調査区	調査区全景 (南から)
図版3	遺構 第1調査区	調査区全景 (北から)、調査区全景 (北から)
図版4	遺構 第1調査区	S B 1 (南から)、S B 2・3
図版5	遺構 第1調査区	S K 2・3 (南から)、S K 4 (北から)
図版6	遺構 第1調査区	S K 5 (北から)、S K 6・7 (東から)
図版7	遺構 第2調査区	調査区全景 (北から)
図版8	遺構 第2調査区	S B 4 (北から)、S B 6・7
図版9	遺構 第2調査区	S B 6 (南東から)、S B 8 (南から)
図版10	遺構 第2調査区	S K 9・S X 1 (北から)、S K 10 (北東より)

図版11	遺構	第2調査区	S N 1 (北から)、S U 1 (南西から)
図版12	遺物	第1調査区	S K 2 (1~4・6・8~16)
図版13	遺物	第1調査区	S K 2 (5・7・17~23・28・32・37・39)
図版14	遺物	第1調査区	S K 2 (25~27・29~31・33~36・38・47~58・60)
図版15	遺物	第1調査区	S K 2 (24・40~44・61~63)、S K 4 (64~70)
図版16	遺物	第1調査区	S K 5 (71~81・83・86)
図版17	遺物	第1調査区	S K 6 (87~91)、S K 7 (92~95)、S K 8 (96) S P 1 (97)、S P 4 (98)、S P 5 (99)
図版18	遺物	第1調査区	包含層 (100~105・108~115・122~128)
図版19	遺物	第1・2調査区	包含層 (106・107・116~121) S K 9 (129)、S K 11 (130~132)、S U 1 (133・134) 包含層 (135~138)
図版20	遺物	第2調査区	包含層 (139~148・150~155)

付 図 目 次

付図1 西浦遺跡第1調査区遺跡配置図 (1/100)

付図2 西浦遺跡第2調査区遺跡配置図 (1/100)

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

本市は近年の著しい人口増加も一段落し、成熟した住宅都市としての様相を呈してきた。しかし、まだまだそれに伴う都市の基盤整備を進めなければならない。このような状況の中で、河内長野市は公共上下水道、アクセス道路、公園等の都市機能の整備、文化会館などの文化施設の充実に努めている。

しかし、このような、公共関係の整備も一般の開発と同じように埋蔵文化財を避けて通ることはできないものである。教育委員会と都市整備部局とは、公共事業に関連する埋蔵文化財の取扱いについて計画段階からの保存協議を進め、文化財保護と開発の調整に力を注いできた。

本調査の原因となった市道西浦線道路改良事業についても周知の埋蔵文化財包蔵地外ではあるが、道路施工ということで総面積が500㎡以上であることから計画段階から埋蔵文化財の取扱いについて協議を進めた。

当該事業地について平成3年に事業主体者で主管担当課である建設部土木課と教育委員会は予定地内について試掘調査を実施し埋蔵文化財の有無を確認することに合意した。この調査については河内長野市遺跡調査会が実施することになった。

調査は平成4年度に第1次施工計画部分(500㎡)を対象に平成4年2月19日から3月19日まで試掘調査を実施し、遺構・遺物を発見した。このことから文化財保護法第57条の6にもとづき、河内長野市長名で遺跡の発見通知が提出された。これに伴い教育委員会は当該遺跡を西浦遺跡と命名し、担当課と協議して第1次施工計画部分について本調査を実施した。

また、平成5年度には第2次施工計画部分(1100㎡)を対象に平成5年1月20日から3月15日まで試掘調査を実施し、遺構・遺物を発見した。このことから文化財保護法第57条の6にもとづき、再度河内長野市長名で遺跡の発見通知が提出された。これに伴い教育委員会は当該地を西浦遺跡の拡大とし、担当課と協議して第2次施工計画部分についても本調査を実施した。本調査は第1次分が平成5年2月8日から平成5年3月19日まで、第2次調査として平成5年6月7日から平成5年8月5日まで実施した。そして、これら2年



第1図 遺跡位置図



第2図 河内長野市遺跡分布図 (1/40,000)

番号	文化財名称	種類	時代	番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町	61	稲荷山城跡	城館	中世
2	河合寺	社寺		62	国見城跡	城館	中世
3	観心寺	社寺	平安～	63	旗藏城跡	城館	中世
4	大郎山古墳	古墳	古墳(前期)	64	権現城跡	城館	中世
5	大郎山南古墳	古墳?	古墳(後期)	(65)	天神社遺跡	社寺	
6	大郎山遺跡	集落	弥生(後期)	(66)	葛城第15経塚	経塚	
7	興禪寺	社寺		67	加賀田神社遺跡	社寺	中世
8	鳥帽子形八幡神社	社寺	室町	68	庚申堂	社寺	
9	塚穴古墳	古墳	古墳(後期)	69	石仏城跡	城館	中世
10	長池窯跡群	生産	平安～近世	70	佐近社遺跡	城館	中世
11	小山田1号古墓	墳墓	奈良	71	旗尾城跡	城館	中世
12	小山田2号古墓	墳墓	奈良	72	葛城第16経塚	経塚	
13	尾命寺	社寺		(73)	葛城第18経塚	経塚	
14	金剛寺	社寺	平安～	(74)	葛城第19経塚	経塚	
15	日野観音寺遺跡	社寺	中世	(75)	観尾塞	城館	中世
16	地蔵寺	社寺		(76)	大沢塞	城館	中世
(17)	岩湧寺	社寺	平安～	(77)	三國山経塚	経塚	
18	五ノ木古墳	古墳	古墳(後期)	(78)	光龍寺	社寺	
19	高向遺跡	集落	旧石器～中世	(79)	猿子城跡	城館	中世
20	鳥帽子形城跡	城館	中世～近世	80	蟹井御神社遺跡	社寺	
21	喜多町遺跡	集落	縄文～中世	(81)	川上神社遺跡	社寺	
22	鳥帽子形古墳	古墳	古墳(後期)	82	千代田神社遺跡	社寺	
23	末広窯跡	生産		83	向野遺跡	集落	縄文～室町
24	塩谷遺跡	散布地	縄文～中世	84	古野町遺跡	散布地	中世
25	流谷八幡神社	社寺		85	上原北遺跡	散布地	
26	蟹井湖南遺跡	散布地	中世	86	大日寺遺跡	社寺	中世
27	蟹井湖北遺跡	散布地	中世	87	高向南遺跡	散布地	鎌倉
28	天見駅北方遺跡	散布地	中世	88	小塩遺跡	集落	縄文～奈良
29	千早口駅南遺跡	散布地	中世	89	加塩遺跡	集落	古墳(後期)
30	岩瀬墓師寺	墳墓	近世	90	尾崎遺跡	集落	古墳～中世
31	清水遺跡	散布地	中世	91	ジョウノマエ遺跡	城館?	
32	神宮天皇社跡	古墳?		92	仁王山城跡	城館	中世
33	堂村地蔵堂跡	社寺	近世	93	タコラ城跡	城館	中世
34	滝畑埋墓	墳墓	近世	94	岩立城跡	城館	中世
(35)	中村阿弥陀堂跡	社寺	近世	95	上原近世瓦窯	城館	近世
(36)	東の村観音堂跡	社寺	近世	96	市町東遺跡	散布地	弥生・中世
(37)	西の村観音堂跡	社寺	近世	97	上田町窯跡	生産	近世
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世	98	尾崎北遺跡	散布地	古墳
39	滝尻亦勤堂跡	社寺	近世	99	西之山町遺跡	集落	中世
(40)	宮ノ下内墓	墳墓	古墳	100	野間里遺跡	集落	平安
41	宮山古墳	古墳?	古墳	101	鳩尾遺跡	散布地	中世
42	宮山遺跡	散布地	縄文～中世	102	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
43	西代藩陣屋跡	城館	江戸	103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
44	上原町墓地	墳墓	飛鳥～奈良	104	小野塚	墳墓	
45	惣持寺跡	社寺	鎌倉	(105)	葛城第17経塚	経塚	
46	栗山遺跡	祭祀	中世～近世	106	薬師堂跡	社寺	中世～
47	寺ヶ池遺跡	散布地	縄文	107	野作遺跡	集落	中世
48	上原遺跡	散布地	中世	108	寺元遺跡	集落	奈良・中世
49	住吉神社遺跡	社寺		(109)	旭原遺跡	散布地	中世
50	高向神社遺跡	社寺	中世	110	法鏡塚古墳跡	古墳	
51	青が原神社遺跡	社寺		111	山上講山古墳跡	古墳	
52	膳所藩河州出張所跡	城館	江戸	112	西浦遺跡	集落	古墳・中世
53	双子塚古墳跡	古墳	古墳	113	地福寺跡	社寺	近世
54	菓子尻遺跡	散布地	縄文～中世	114	宮の下遺跡	集落	平安～中世
55	河合寺城跡	城館	旧石器～近世	115	栄町遺跡	散布地	縄文・古墳
56	三日市遺跡	集落	旧石器～近世	116	錦町遺跡	散布地	中世
57	日の谷城跡	城館	室町	(117)	太井遺跡	散布地	中世
58	高木遺跡	散布地	縄文	118	錦町北遺跡	社寺	中世
59	沙の山城跡	城館	中世	119	市町西遺跡	散布地	縄文・中世
60	峰山城跡	城館	中世	120	栄町南遺跡	散布地	中世

() は地図範囲外

第1表 河内長野市遺跡地名表

度分の調査の整理作業と報告書作成を平成5年4月1日から平成6年3月25日まで実施した。

第2節 位置と環境

1 位置

当該遺跡は大阪府河内長野市加賀田地区内に位置し、標高は約120mを測る。遺跡は和泉葛城山系から北東に派生する石川と天見川、加賀田川に挟まれた山地性丘陵の西南側の河岸段丘上に広がる。

和泉山脈、金剛山地に源を発する石川の各支流や西除川は狭小な河谷を形成しながら北流する。河内長野市はこれら河川によって作られた谷や河岸段丘上に集落が発達している。特に中心となる長野や三日市は谷口の集落として、また、各谷筋を通る街道の要衝として発達してきたものである。



第3図 調査区位置図 (1/5,000)

2 歴史的環境

遺跡もまた、谷筋毎に分布している。縄文時代の遺跡は最近増加しているが、石川本流から天見川沿いに北から向野遺跡、喜多町遺跡、三日市遺跡、小塩遺跡の4遺跡があり、後期を中心とする土器が出土している。また、石川本流には高向遺跡や宮山遺跡があり、宮山遺跡からは中期後半の土器と共に竪穴住居も確認されている。さらに、三日市遺跡や小塩遺跡からは早期の押型文土器が出土している。これらの遺跡以外に高向遺跡、高木遺跡、寺ヶ池遺跡、菱子尻遺跡からはサヌカイト片や石器が出土している。

弥生時代は石川左岸の塩谷遺跡や天見川右岸の三日市遺跡から中期の遺物が、大師山遺跡からは後期の遺物が出土している。

古墳時代は天見川を見下ろす位置に前期の前方後円墳である大師山古墳、中期の三日市遺跡の古墳群、後期の烏帽子形古墳が分布している。石川本流の向野町から寿町にかけては五ノ木古墳、法師塚古墳、双子塚古墳などの古墳が分布していた。また、石川の左岸の上原町には塚穴古墳が現存している。集落遺跡では前期から中期にかけては天見川沿いに三日市遺跡があり、後期前半では同じく天見川沿いに喜多町遺跡、そして当該遺跡と同じ段丘上に近接して小塩遺跡、加塩遺跡がある。

奈良時代になると、高向遺跡や喜多町遺跡、小塩遺跡から掘立柱建物や土坑が検出されている。また、本市と大阪狭山市との市境の小山田町からは2基の火葬墓が発見されている。

平安時代の遺跡は向野遺跡や天見川沿いの尾崎遺跡の10世紀の掘立柱建物や三日市遺跡の11-12世紀の掘立柱建物、そして石川本流の野間里遺跡が確認されている。また市内にある観心寺や金剛寺などの寺院は平安時代末頃から伽藍が整い多くの荘園を有していた。

中世になると、交通路が整備され各谷筋を通る高野街道や天野街道沿いに集落が分布している。とくに、西高野街道では北から菱子尻遺跡や古野町遺跡があり、東高野街道では向野遺跡がある。西、東が一つとなって天見川沿いを南に伸びる高野街道では、合流付近の長野神社遺跡や喜多町遺跡、更に南に三日市遺跡、尾崎遺跡、ジョウノマエ遺跡、清水遺跡、千早口駅南遺跡（寺院跡も含む）、天見駅北方遺跡、蟹井淵北遺跡、蟹井淵南遺跡と続く。これらは明らかに街道と共に発達した遺跡である。集落跡以外では、同じように街道を見下ろす尾根上には南北朝から戦国時代にかけての城塞が20数ヵ所分布している。生産遺跡としては平安時代から中世にかけての炭焼窯と思われる窯跡が市内の山間部に分布している。

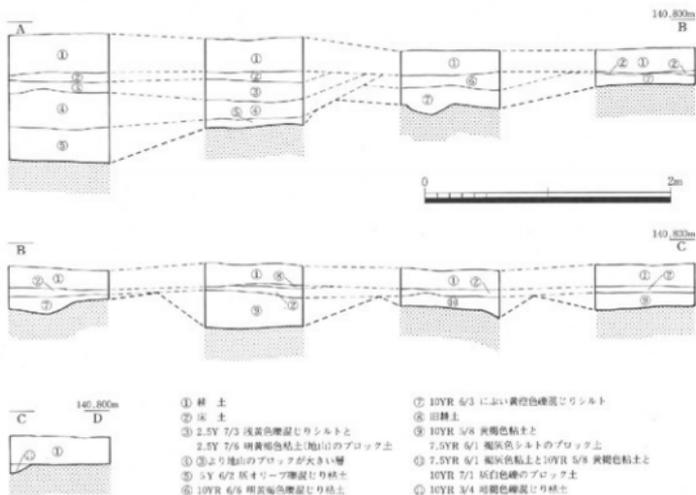
近世になると近江膳所藩や河内西代藩の陣屋跡があり、さらに、確認数は少ないが瓦窯も、地元の伝承通り、確認されている。

第2章 調査の結果

第1節 第1調査区

1 概略

本調査区は遺跡の北側に位置し、標高130mを測る。北側は小塩遺跡と加塩遺跡と小谷を挟んで隣接する。調査区は幅6.5m、総延長88mの範囲である。



第4図 第1調査区東壁土層断面実測図 (1/40)

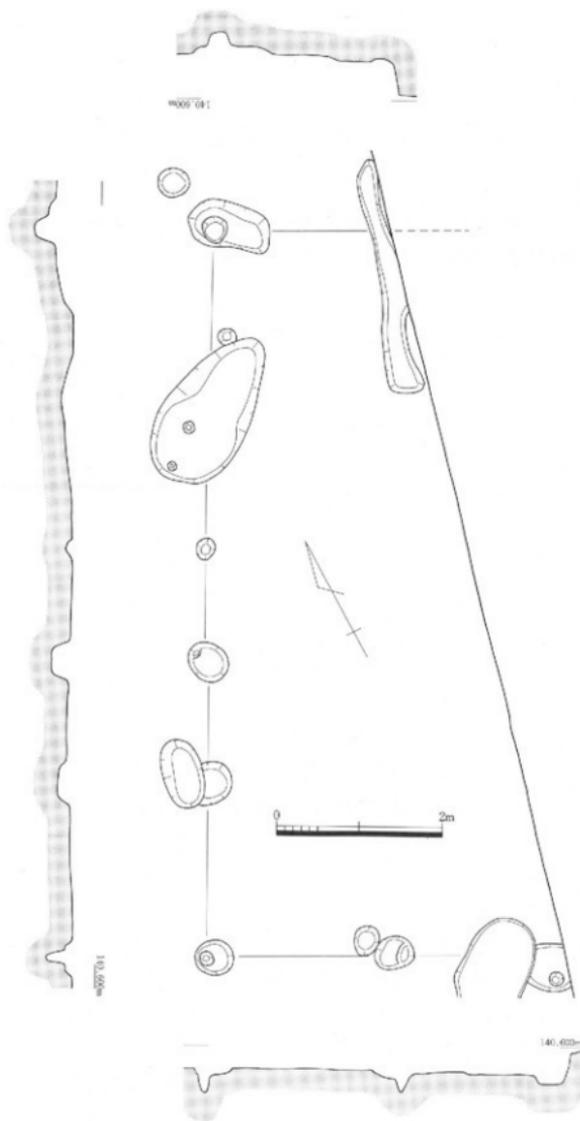
2 遺構と遺物

(1) 掘立柱建物

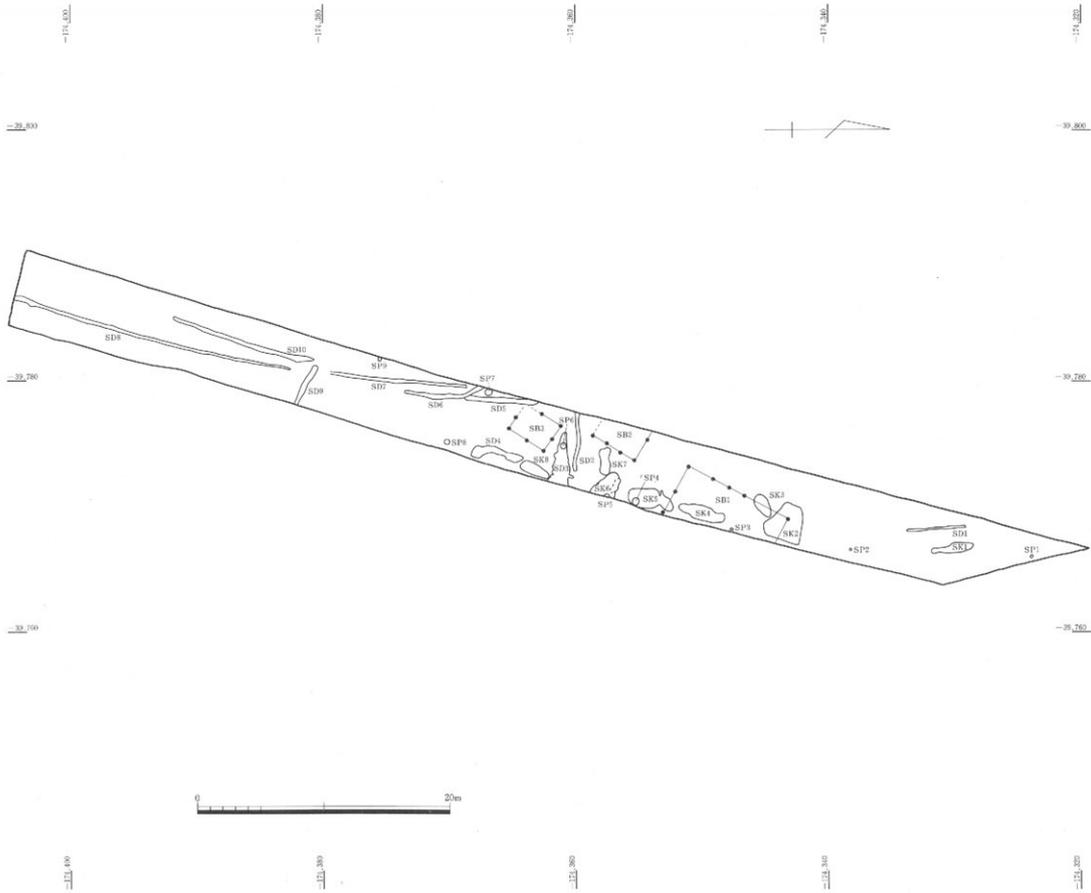
[SB1] (第5図、図版4)

第1調査区の中央北側で検出された。桁行5間(9m)×梁行2間(4.2m)以上の建物である。桁行方向はN-28°-Eを示す。桁行柱間は北側から2m・1.5m・1.5m・1.5m・2mを測る。梁行の柱通りは南側で西側から2.2m・2mを測る。柱穴は平均径0.2m、深さは0.2mで掘方は楕円形で長径0.4mを測る。建物は東側調査区外に延び、北側はSK2と重複している。

遺物は出土しなかった。



第5图 SB1 遺構実測図 (1/60)



第6図 第1調査区遺構配置図 (1/300)

[SB2] (第7図、図版4)

調査区の中央でSB1の南側4mに位置する。桁行3間(3.9m)×梁行1間(2m)以上の建物である。桁行方向はN-33°-Eを示す。桁行柱間は北側から1.3mの等間隔である。梁行の柱通りは北側で2mを測る。柱穴は平均径0.2m、深さは0.2mで掘方は楕円形で長径0.5mを測る。建物は西側調査区外にのびる。

遺物は出土しなかった。

[SB3] (第8図、図版4)

調査区の中央でSB2の南側2mに位置する。桁行2間(3.4m)×梁行2間(2.5m)の建物である。桁行方向はN-32°-Eを示す。桁行柱間は北側から1.7mの等間隔である。梁行の柱通りは北側で2.2mを測る。柱穴は掘方だけで平均径0.4m、深さ0.4mを測る。建物は暗渠によって柱穴が削平されている。

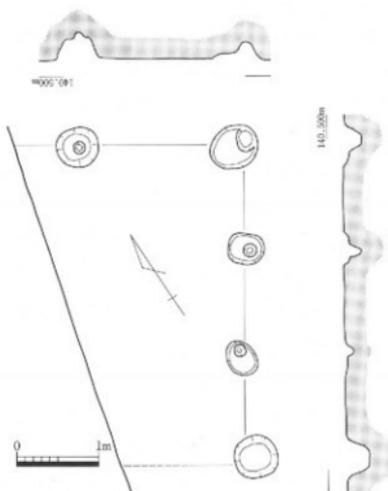
遺物は出土しなかった。

(2) 溝

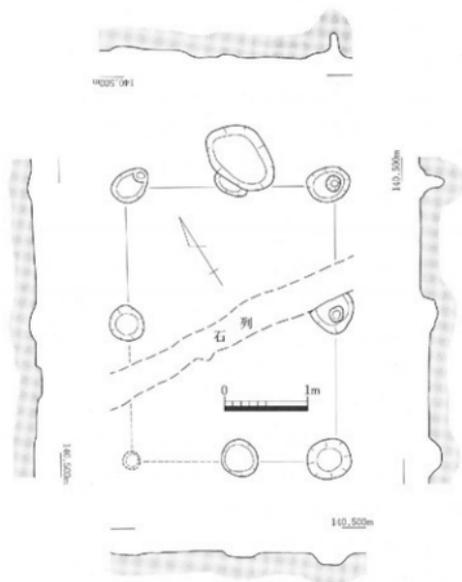
[SD1]

調査区の北側端で南北に約4.5mの長さで検出された。北端は調査区全体が谷に落ち込むため、削平されていた。最大幅0.3m、深さ0.04mを測る。

実測可能遺物は出土しなかった。



第7図 SB2遺構実測図(1/60)



第8図 SB3遺構実測図(1/60)

〔SD2〕 (第9図)

調査区中央のSB2の南側1mに位置する。検出長は約4.6mである。西端は調査区外にのびる。埋土はにぶい黄褐色礫混じりシルトの層である。最大幅0.4m、深さ0.15mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔SD3〕 (第10図)

調査区中央のSD2の南側1mに位置し、SD2に平行するように西に向かって約5.2m検出された。埋土は黄褐色シルトと褐色シルトのブロック土である。最大幅1.06m、深さ0.3mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔SD4〕 (第11図)

調査区中央のSB3の東側2mに位置し、やや東に偏しながら南北に約4.1m検出された。溝の断面は逆台形を呈する。埋土はにぶい黄褐色礫混じりシルトの層である。最大幅1.0m、深さ0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔SD5〕 (第12図)

調査区中央の西側調査区外から南に約5.3m検出された。溝は約3度西に偏して走る。埋土は黄褐色シルトと褐色シルトのブロック土である。最大幅0.5m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔SD6〕 (第13図)

調査区中央の西側調査区外から南にSD5を切る様にして約6m検出された。溝は約3度西に偏して走る。埋土は耕土であることから鋤溝の痕跡と考えられる。最大幅0.4m、深さ0.1mを測る。

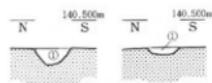
実測可能な遺物は出土しなかった。

〔SD7〕

調査区中央の西側調査区外から南に走る溝でSD6の西側に平行するように約10.7m検出された。溝は約3度西に偏して走る。埋土はにぶい黄褐色シルトと褐色シルトのブロック土である。最大幅0.5m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔SD8〕



① 10YR 5/4 にぶい黄褐色礫混じりシルト



第9図 SD2遺構
断面実測図 (1/40)



① 10YR 5/6 黄褐色シルトと
7.5YR 6/1 褐色シルトのブロック土



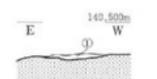
第10図 SD3遺構
断面実測図 (1/40)



① 10YR 5/4 にぶい黄褐色
礫混じりシルト



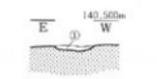
第11図 SD4遺構
断面実測図 (1/40)



① 10YR 5/6 黄褐色シルトと
7.5YR 6/1 褐色シルトの
ブロック土



第12図 SD5遺構
断面実測図 (1/40)



① 耕土



第13図 SD6遺構
断面実測図 (1/40)

調査区中央から南に走る溝で、SD 7の続きで南側調査区外にのびる。検出長は約22.3 mである。埋土はにぶい黄褐色シルトと褐色シルトのブロック土である。最大幅0.5m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

[SD 9]

SD 7とSD 8の間に位置し、東側調査区外から西に約3.6m検出された。埋土はにぶい黄褐色シルトと褐色シルトのブロック土である。最大幅0.5m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

[SD 10]

調査区南側をSD 8の西側1mに平行して南に走る溝で約11m検出された。埋土はにぶい黄褐色シルトと褐色シルトのブロック土である。最大幅0.6m、深さ0.1mを測る。

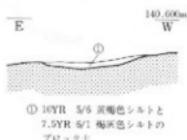
実測可能な遺物は出土しなかった。

(3) 土坑

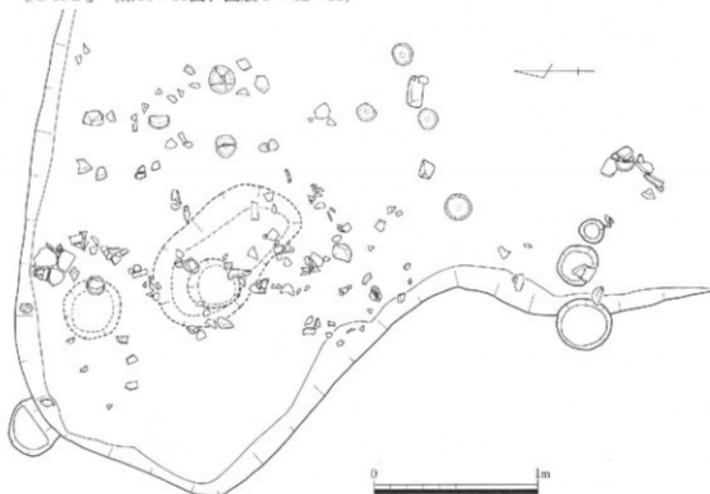
[SK 1] (第14図)

調査区北側でSD 1の東側約1.5mに位置する。平面形は長楕円形を呈する。埋土は黄褐色シルトと褐色シルトのブロック土である。主軸方向はN-9°-Wを示す。長径2.8m、短径0.8m、深さ0.1mを測る。実測可能な遺物は出土しなかった。

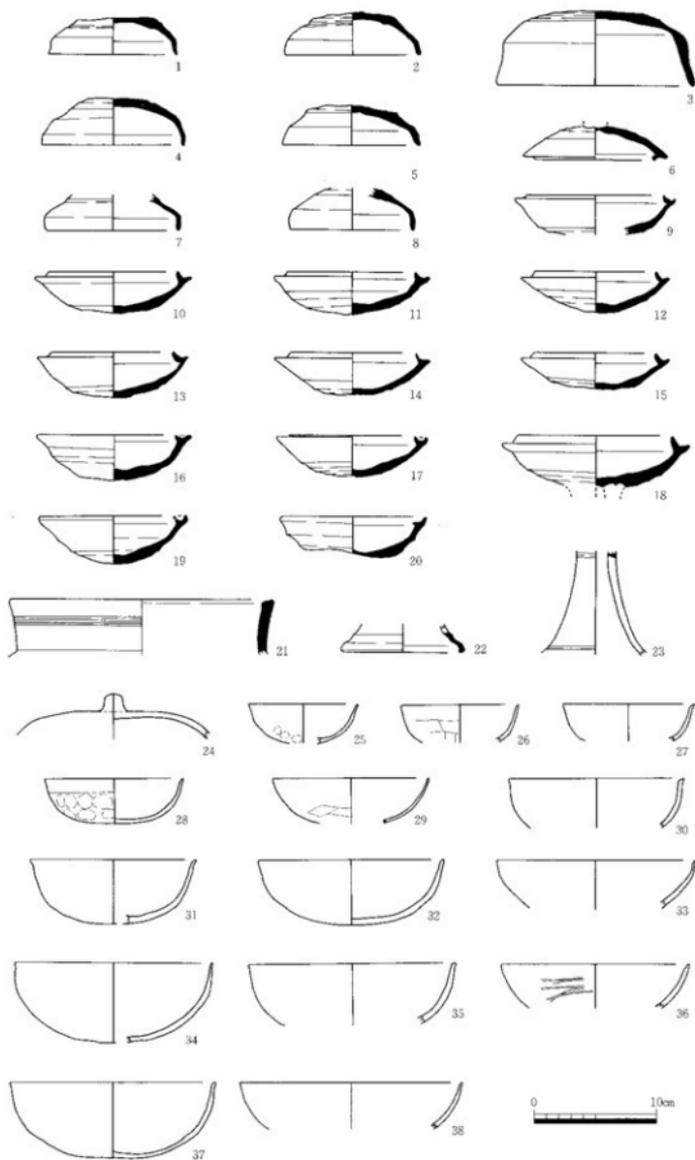
[SK 2] (第15~18図、図版5・12~15)



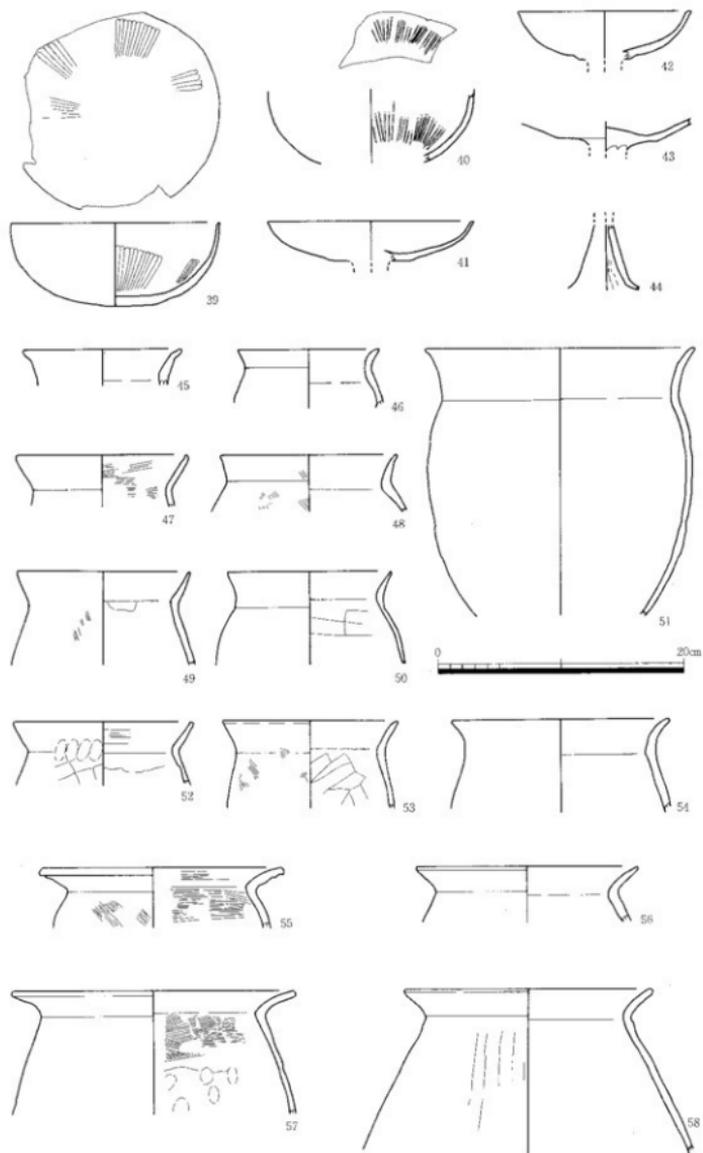
第14図 SK1遺構断面実測図 (1/40)



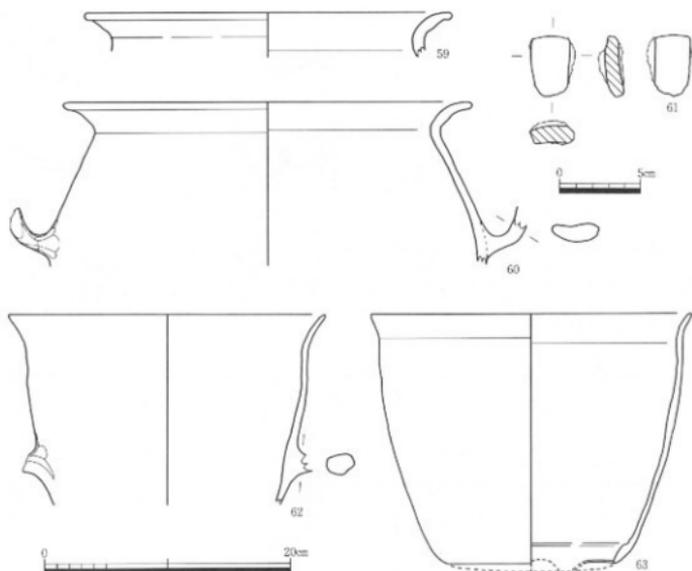
第15図 SK 2遺構実測図 (1/30)



第16圖 SK 2 出土遺物實測圖 (1)



第17图 SK 2 出土遺物実測図(2)



第18図 SK2 出土遺物実測図(3)

調査区北側でS B 1の北側と重複する。平面形は不定形で東側調査区外に広がるようである。埋土は褐灰色シルトで炭と焼土が混じっており火の使用が認められる。遺構内からは多くの須恵器と土師器が出土した。また、下層からはS B 1の柱穴が検出された。長径3.1m、短径2.2m、深さ0.25mを測る。

遺物は須恵器が坏蓋(1~8)、坏身(9~17・19・20)、高坏坏部(18)、高坏脚部(22・23)、直口壺(21)がある。土師器は撮み付蓋(24)、坏(25~40)、高坏坏部(41~43)、高坏脚部(44)、甕(45~58)、把手付塼(59・60)、甕(62・63)が出土した。他に不明鉄製品(61)が1点出土した。

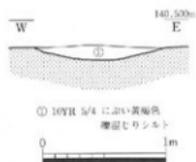
[SK3] (第19図、図版5)

調査区北側でSK2の南側に近接しS B 1と切りあっている。平面形は長楕円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色礫混じりシルトである。主軸方向はN-60°-Eを示す。長径2.0m、短径1.0m、深さ0.15mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

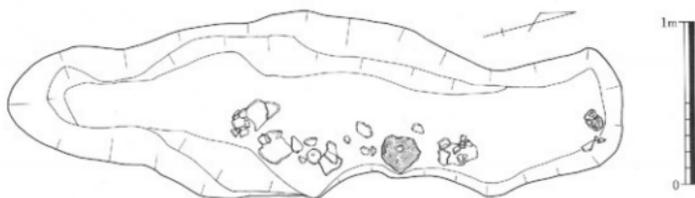
[SK4] (第20・21図、図版5・15)

SK2の南側でS B 1の内側に位置する。平面形は不定形な長楕円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色礫混じりシルトである。土坑の底部の東縁部から須恵器と土師器が出土した。長径3.7m、短径1m、深さ0.25mを測る。

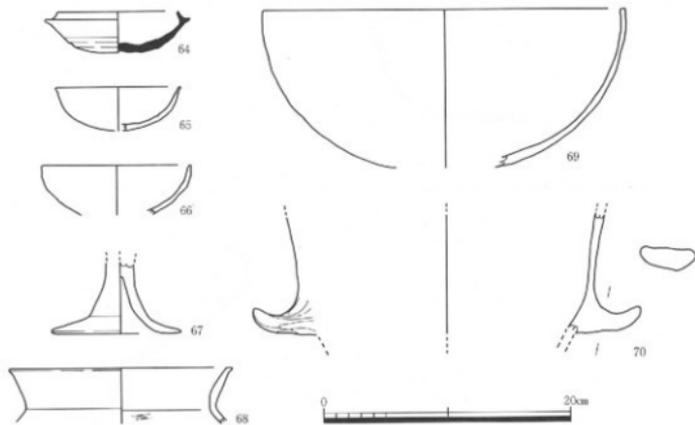


第19図 SK3遺構断面実測図(1/40)

遺物は須恵器が坏身(64)、土師器が坏(65・66・69)、高坏脚部(67)、甕(68)、瓶(70)が图示できた。



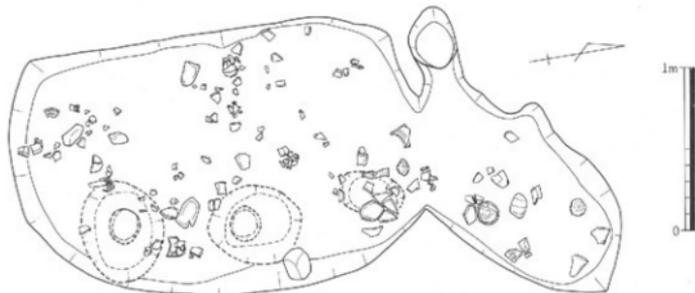
第20図 SK 4 遺構実測図 (1/30)



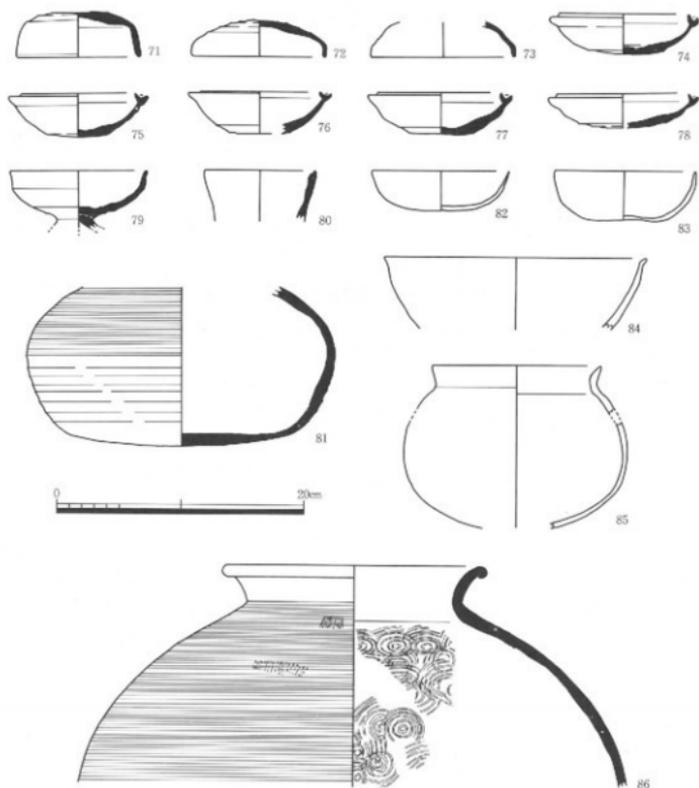
第21図 SK 4 出土遺物実測図

[SK 5] (第22・23図、図版6・16)

SK 4の南側約1mに位置する。平面形は大小の不定形な長楕円形が二つ南北につながっ



第22図 SK 5 遺構実測図 (1/30)



第23図 SK 5 出土遺物実測図

た形である。埋土はにぶい黄褐色礫混じりシルトである。土坑の底部近くからは須恵器と土師器が出土した。また、出土遺物を除去後、底部からビットが3箇所検出された。長径3.7m、短径1m、深さ0.23mを測る。

遺物は須恵器が坏蓋(71~73)、坏身(74~78)、高坏(79)、長頸壺口縁部(80)、偏壺(81)、甕(86)、土師器は坏(82・83)、鉢(84)、甕(85)が図示できた。



第24図 SK 6 遺構実測図 (1/30)

〔SK 6〕（第24・25図、図版6・17）

SK 5の南側約1mに位置する。平面形はやや不定形な楕円形を呈して、東側調査区外に広がるようである。土坑北側は長径13m、短径1m、深さ0.1mに一段下がる。埋土はにぶい黄褐色礫混じりシルトである。土坑の底部近くからは須恵器と土師器が出土した。検出長径2.2m、短径2m、深さ0.1mを測る。

遺物は須恵器が坏蓋(87)、坏身(88・89)、甕(90)、土師器は坏(91)が図示できた。

〔SK 7〕（第26・27図、図版6・17）

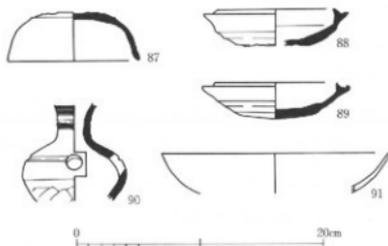
SK 6の西側約1mに位置する。平面形はやや不定形な長楕円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色礫混じりシルトである。遺構内からは土師器だけが出土した。主軸方向は東西方向である。検出長径2.2m、短径0.9m、深さ0.15mを測る。

遺物は土師器の坏(92)、高坏(93・94)、甕(95)が図示できた。

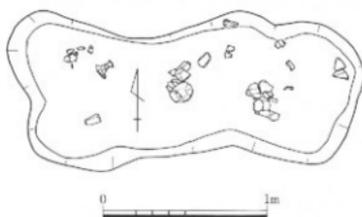
〔SK 8〕（第28・29図、図版17）

SK 6の南側約5mに位置し、一部が後世の暗渠によって削平されている。平面形はやや不定形な長楕円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色礫混じりシルトである。主軸方向はN-26°-E。検出長径2.5m、短径0.8m、深さ0.2mを測る。

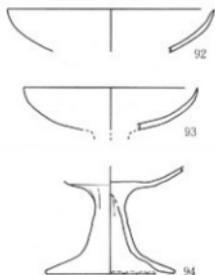
遺物は須恵器の坏身(96)が一点図示できた。



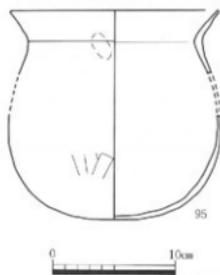
第25図 SK 6出土遺物実測図



第26図 SK 7遺構実測図 (1/30)



第27図 SK 7出土遺物実測図



第29図 SK 8出土遺物実測図

(4) 遺物出土ピット

この調査区からは遺物が出土したピットが3箇所あった。

〔SP1〕 (第30図、図版17)

調査区の北側端で検出された。平面形は円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色礫混じりシルトである。径0.25m、深さ0.2mを測る。

遺物は須恵器の長頸壺 (97) が一点図示できた。

〔SP4〕 (第31図、図版17)

調査区の中央、SK5の下層から検出された。平面形は円形を呈する。径0.6m、深さ0.5mを測る。

遺物は土師器の埴の把手 (98) が一点図示できた。

〔SP5〕 (第32図、図版17)

調査区の中央、SK6の下層から検出された。平面形は円形を呈する。径0.5m、深さ0.3mを測る。

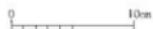
遺物は須恵器の坏身 (99) が一点図示できた。



第30図 SP1出土
遺物実測図



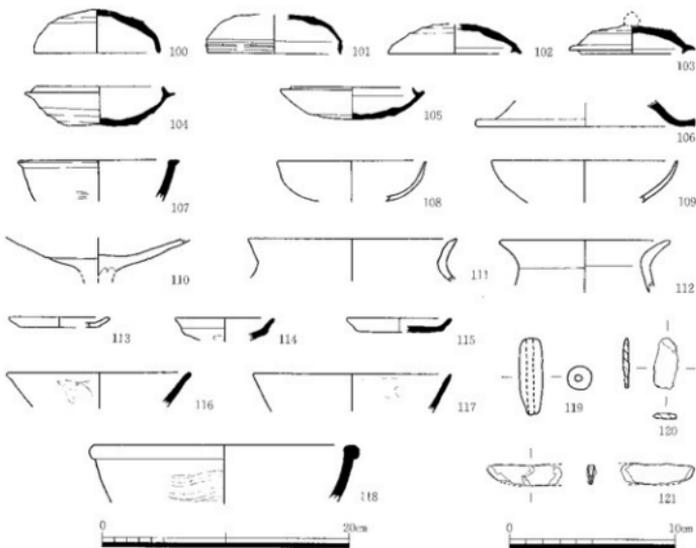
第31図 SP4出土
遺物実測図



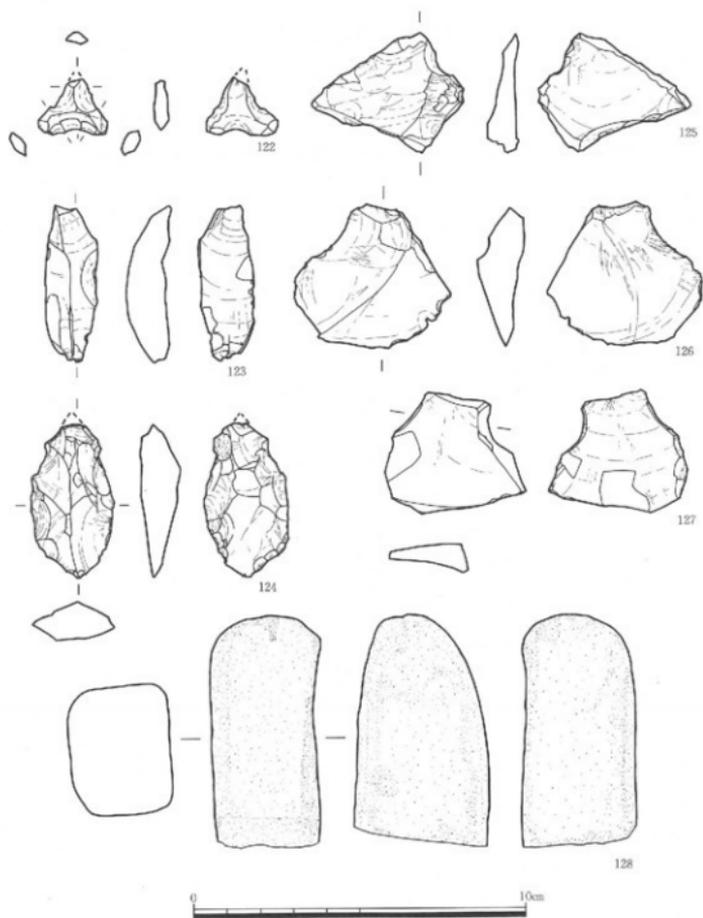
第32図 SP5出土
遺物実測図

(5) 包含層 (第33・34図、図版18・19)

石籬から近世の唐津まで出土した。



第33図 第1調査区包含層出土遺物実測図 (1)



第34图 第1調査区包含層出土物実測図(2)

第2節 第2調査区

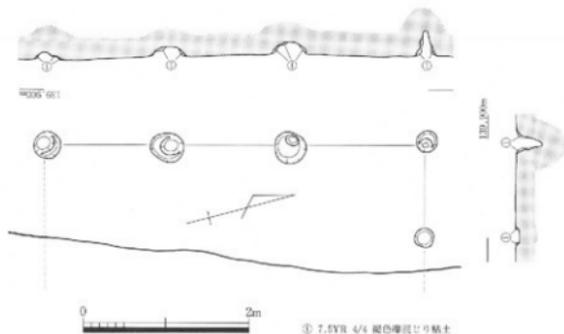
1 概略

本調査区は第一調査区の約10m南側に位置し、北側端が標高130m、南側端が標高120mを測る。南側は一段下がるようである。調査区は幅6.5m、総延長約140mの範囲である。

2 遺構と遺物

(1) 掘立柱建物

[S B 4] (第35図、図版 8)

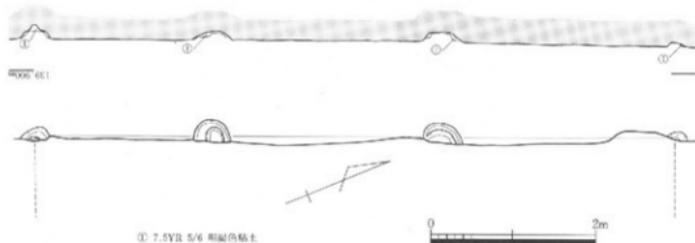


第35図 SB 4 遺構実測図 (1/60)

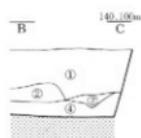
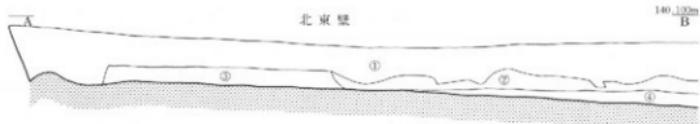
第2調査区の北端から南へ約38mに位置する。桁行3間(4.6m)×梁行1間(1.14m)以上の建物で、東側調査区外に広がる。桁行方向はN-16°-Eを示す。桁行柱間は北側から1.61m・1.46m・1.54mを測る。柱穴の平面形は円形で、平均径0.16m、深さ0.3m、掘方も円形で平均径0.4mを測る。

遺物は出土しなかった。

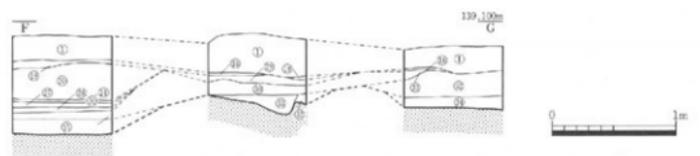
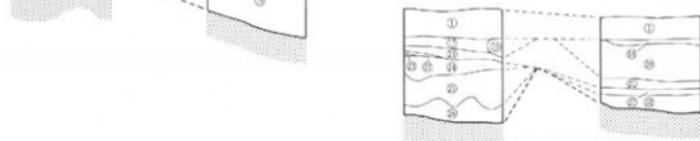
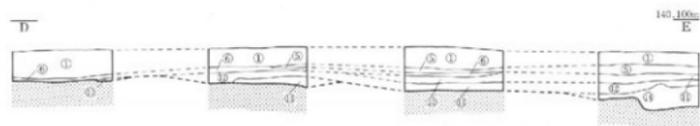
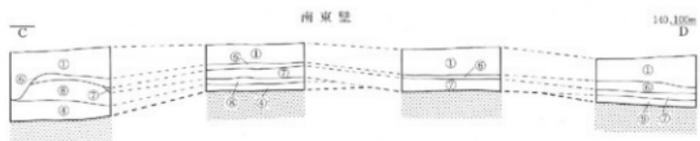
[S B 5] (第36図)



第36図 SB 5 遺構実測図 (1/60)



- ① 耕土
- ② 10YR 5/4 におい黄褐色砂混じり粗砂
- ③ 10YR 6/6 明黄褐色粗砂混じり粘土
- ④ 2.5Y 4/3 オリーブ褐色細泥り粘土
- ⑤ 10YR 5/2 におい黄褐色細砂
- ⑥ 束土
- ⑦ 10YR 5/2 におい黄褐色細泥り粗砂
- ⑧ 10YR 5/4 におい黄褐色粗砂混じり粗砂
- ⑨ 10YR 4/4 褐色細泥り粘土
- ⑩ 10YR 5/4 におい黄褐色粗砂
- ⑪ 10YR 4/4 褐色細泥り粗砂
- ⑫ 10YR 5/6 黄褐色粗砂混じり粘土
- ⑬ 7.5YR 4/6 褐色細泥り粘土
- ⑭ 10YR 4/6 褐色細泥り粘土
- ⑮ 10YR 5/4 におい黄褐色細泥り粗砂
- ⑯ 10YR 3/3 暗褐色細泥り粘土
- ⑰ 2.5Y 6/3 におい黄褐色粗砂混じり粗砂
- ⑱ 2.5Y 5/2 暗黄褐色粗砂混じり粗砂
- ⑲ 10YR 4/3 におい黄褐色細泥り粗砂
- ⑳ 10YR 5/3 におい黄褐色粗砂混じり粗砂
- ㉑ 10YR 5/6 黄褐色粗砂混じり粗砂
- ㉒ 10YR 6/8 明黄褐色粗砂
- ㉓ 10YR 6/8 明黄褐色粗砂混じり粘土



第38図 第2調査区北東壁・南東壁土層断面実測図 (1/40)

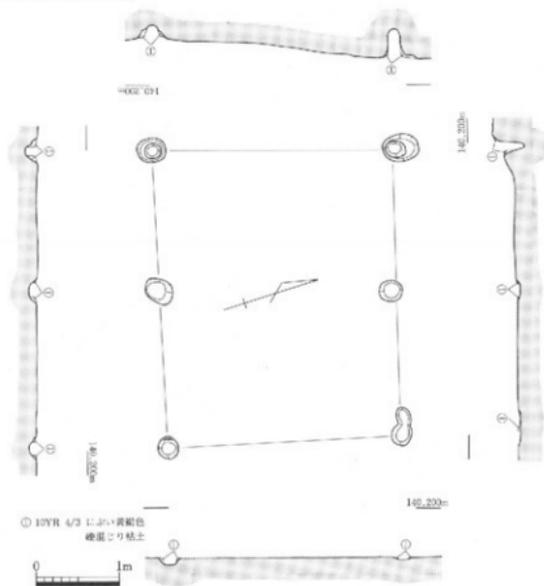
S B 4の南側約4mに位置する。3間(7.7m)分の柱列が検出された。状況から建物の桁行と考えられる。建物は東側調査区外に広がる。主軸方向はN-23°-Eを示す。桁行柱間は北側から2.83m・2.68m・2.19mを測る。柱穴の平面形は円形であるが全容は確認されていない。平均径約0.46m、深さ0.1m、掘方も円形で平均長径0.46mを測る。

遺物は出土しなかった。

[S B 6] (第39図、図版8・9)

S B 5の西側約3mに位置する。桁行2間(3.5m)×梁行1間(2.9m)と考えられる。建物は梁行の柱間が一定でない。主軸方向はN-75°-Wを示す。桁行柱間は東側から1.8m・1.7mを測る。掘方と柱穴の平面形は円形であった。柱穴は平均径約0.18m、深さは0.1m、掘方も円形で平均径約0.2mを測る。

遺物は出土しなかった。

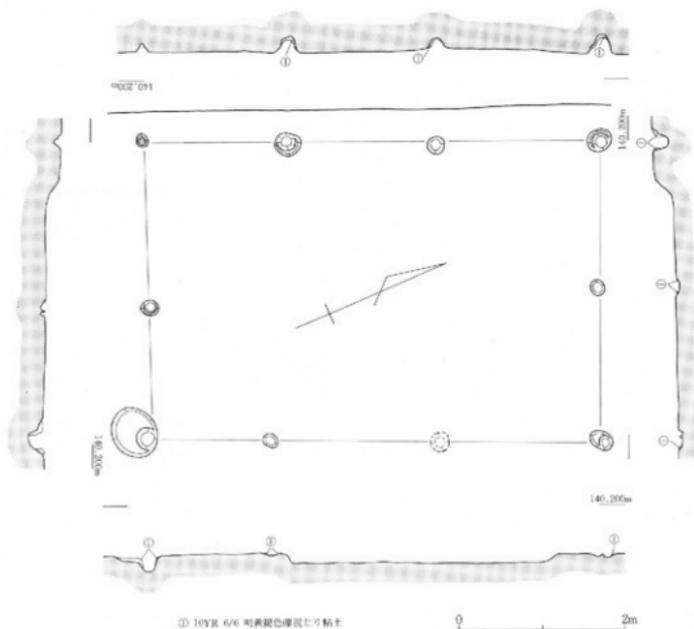


第39図 S B 6 遺構実測図 (1/60)

[S B 7] (第40図、図版8)

S B 6と北側梁行が重複する。桁行3間(5.5m)×梁行2間(3.7m)と考えられる。梁行の柱間は一間ふえる可能性がある。主軸方向はN-24°-Eを示す。桁行柱間は北側から1.4m・2.6m・1.4mを測る。柱穴の平面形は円形である。掘方と柱穴は円形であった。柱穴は平均径約0.2m、深さ0.1m、掘方も円形で平均径約0.3mを測る。

遺物は出土しなかった。

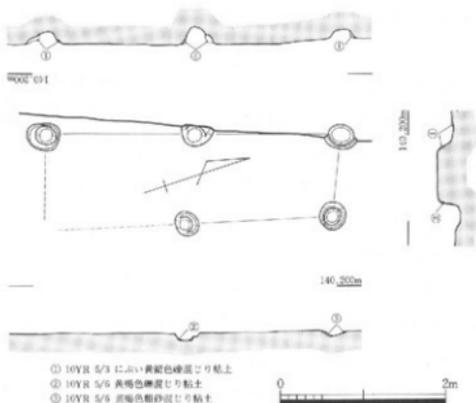


第40図 SB7 遺構実測図 (1/60)

〔SB8〕(第41図、図版9)

SB7の南側約4mに位置する。桁行2間(3.5m)×梁行1間(1m)

以上と考えられる。建物は西側調査区外に広がる。また南東隅の柱穴は消失している。主軸方向はN-18°-Eを示す。桁行柱間には北側から1.7m・1.8mを測る。柱穴は円形である。掘方と柱穴の平面形は円形であった。柱穴は平均径約0.18m、



第41図 SB8 遺構実測図 (1/60)

深さ0.2m、掘方も円形で平均径約0.35mを測る。遺物は出土しなかった。

(2) 土坑

[SK9] (第42・43図、図版10・19)

調査区北側端のSX1内に位置する。平面形は楕円形を呈し、北側調査区外に広がる。埋土は明褐色礫混じり粘土である。主軸方向はN-43°-Wを示す。長径1.7m、短径0.8m、深さ0.15mを測る。

遺物は土師質小皿(129)が出土した。



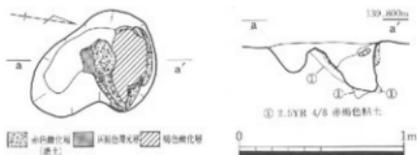
第42図 SK9出土遺物実測図

第43図 SK9遺構断面実測図(1/40)

[SK10] (第44図)

S B 4の北側4mに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。土坑の内部は火を受けて、赤色の酸化層となっている。長径0.8m、短径0.6m、深さ0.35mを測る。

遺物は出土しなかった。

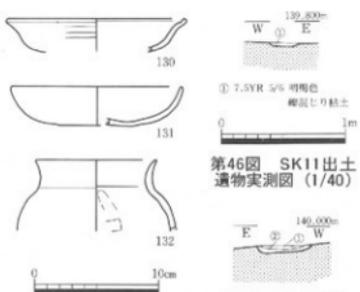


第44図 SK10遺構実測図(1/30)

[SK11] (第45・46図、図版19)

S B 5の西側約4mに位置する。平面形は長楕円形を呈する。埋土は明褐色礫混じり粘土である。主軸方向はN-19°-Eを示す。長径1.1m、短径0.3m、深さ0.02mを測る。

遺物は土師器杯(130・131)、甕(132)が出土した。

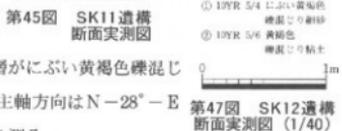


第46図 SK11出土遺物実測図(1/40)

[SK12] (第47図)

S B 8の南側約1mに位置する。平面形はややいびつな長楕円形を呈する。埋土は上層がにぶい黄褐色礫混じり細砂、下層が黄褐色礫混じり粘土である。主軸方向はN-28°-Eを示す。長径3.1m、短径0.4m、深さ0.05mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

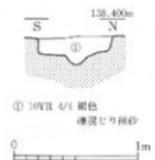


第47図 SK12遺構断面実測図(1/40)

[SK13] (第48図)

調査区の南側部分、全体に南側に落ち込んだ谷状の地形に相当するところに位置する。平面形は楕円形を呈すが、西側の一部が突出している。埋土は褐色礫混じり微砂である。主軸方向はN-56°-Wを示す。長径1.12m、短径0.66m、深さ0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

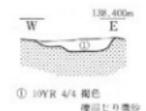


第48図 SK13遺構断面実測図(1/40)

〔SK14〕 (第49図)

SK13の東側約1mに位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は褐色礫混じり微砂である。主軸方向はN-31°-Eを示す。長径0.76m、短径0.68m、深さ0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。



第49図 SK14遺構断面実測図 (1/40)

〔SK15〕 (第50図)

SK14の東側約2mに位置する。平面形は楕円形を呈するが一部東側調査区外に広がる。埋土は褐色礫混じり微砂である。主軸方向はN-50°-Eを示す。長径0.66m、短径0.31m、深さ0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。



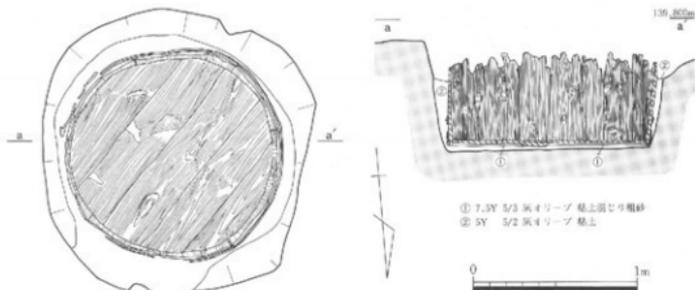
第50図 SK15遺構断面実測図 (1/40)

(3) 埋桶

〔SN1〕 (第51図、図版11)

調査区の北端、西壁に接して検出された。平面形は円形を呈する。上半部分はすでに削平されて消失している。掘方は桶よりやや大きく逆台形に掘られている。上端径1.8m、深さ0.68mを測る。桶は木製で底板と側板の下半部分が残存していた。桶の径130cm、残存高50cm、板材の厚みは2.5cmを測る。埋土は上層が灰オリープ粘土混じり粗砂、下層が灰オリープ粘土である。

実測可能な遺物は出土しなかった。



第51図 SN1遺構実測図 (1/30)

(4) 集石

〔SU1〕 (第52・53図、図版11・19)

SB6の北側約1mに位置する。集石の詰っていた土坑は平面形が隅丸の長方形を呈していたが、西北側と南東側部分は削平されている。埋土は褐色粘土で炭化物が混じっている。集石は北側と南側に大きく区分できた。北側は1.5m×1m、南側は1.5m×1.2mの

範囲で石が集められている。石の大きさは最大20cm×15cm×10cmを測る。主軸方向はN-34°-Eを示す。長軸3.5m、短軸1.3m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師器甕(133・134)が図示できた。

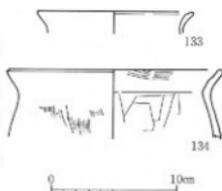
[SU2] (第54図)

調査区の南側部分でSK13の北側2mに位置する。集石の詰っていた土坑は平面形が楕円形を呈する。埋土は褐色礫混じり微砂である。集石の大きさは平均20cm×20cm×15cmを測る。主軸方向はN-68°-Eを示す。長軸1.2m、短軸0.7m、深さ0.15mを測る。

遺物は出土しなかった。

[SU3] (第55図)

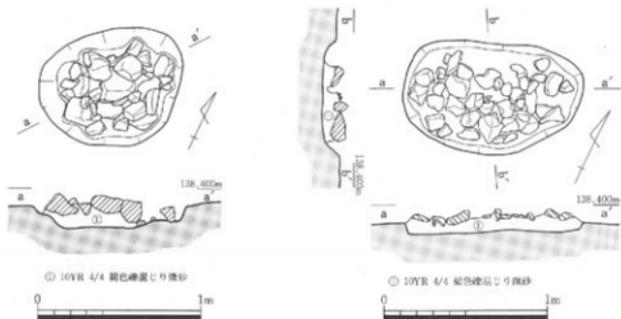
調査区の南側部分でSK13の北側1mに位置する。集石の詰っていた土坑は平面形が長楕円形を呈する。埋土は褐色礫混じり微砂である。集石の大きさは平均20cm×20cm×15cm



第52図 SU1 出土遺物実測図



第53図 SU1 遺構実測図 (1/30)



第54図 SU2 遺構実測図 (1/30)

第55図 SU3 遺構実測図 (1/30)

を測る。土坑の主軸方向はN-50°-Eを示す。長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.1mを測る。
遺物は出土しなかった。

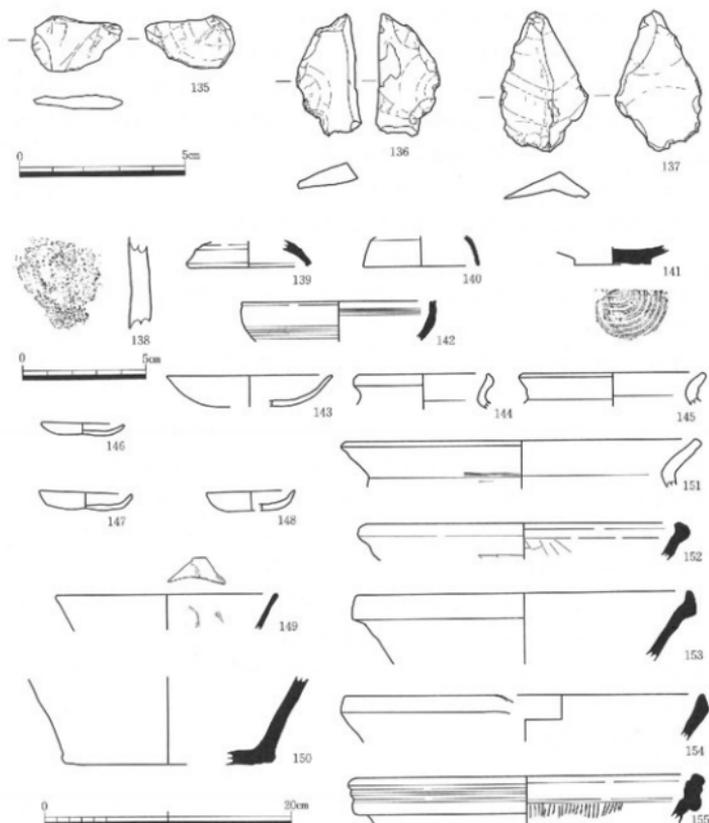
(5) ビット

調査区的一段下がった南側部分に集中している。

[S P10~S P18]

平面形が円形のビットである。径0.4mから0.15mで深さ0.3m~0.15mを測る。すべて埋土に炭化物および炭が混じていた。遺物は出土しなかった。

(6) 包含層 (第56図、図版19)



第56図 第2調査区包含層出土遺物実測図

第3節 遺物

1 土師器・須恵器

今回の調査では第1調査区の上坑から多くの土師器・須恵器が出土した。

(1) 土師器

[坏] (第16・17・21・23・33・45図、図版13～16・18・19)

坏AはSK11出土の(130)のみで外面ヘラミガキが見られる。坏Cは丸底の底部から口縁部は上方にのびる。口縁端部は若干外反する。体部外面3分の2はユビオサエが見られる。口径9cmから13cm、器高が3.5cmから4cmの1類と口径が13.5cm以上で器高が4.5cmから5cmの2類、更に口径が16cmから17cm、器高が6cmから7cmの3類に分けられる。1類はSK2の(25～29)、SK4の(65・66)、SK5の(82・83)、包含層の(108・109)がある。2類はSK2の(30～33・36)、SK11の(131)がありSK2の(36)は外面ヘラミガキが見られ、口縁端部は内傾する面が見られる。3類はSK2の(34・35・37～40)があり、(39・40)には内面に放射状の暗文が見られる

[高坏] (第17・27・38図、図版15・17・18)

坏部が弯曲しながら開く高坏Aと坏部が少し屈曲する高坏Bとがある。高坏AはSK2の(42)、SK7の(93)がある。高坏BはSK2の(41・43)、SK7の(94)包含層の(110)がある。これらの脚部は坏との接合付近が絞り込みの痕跡がある。

[甕] (第17・21・23・33・45・52図、図版14～15、18・19)

甕Aは口径14cm程度、口縁部が内弯気味に外上方にのび端部はそのまま丸く終わるものと内側にやや肥厚するものがある。SK2の(47・49・52)が該当する。甕Bは口径が18cmから22cmと大型品である。口縁部が大きく外反し、端部は面をなす。SK2の(55～58)、SU1の(134)がある。甕CはSK4の(68)のみである。直線的に外傾する口縁部は端部で外側にすこし撮み出している。口縁部断面では内側に少し肥厚する。

甕Dは短く外反する口縁部を持ち、端部はそのまま終わる。口縁部断面では内側に少し肥厚する。SK2の(46)、SK5の(85)、SU1の(133)が該当する。特に(85)から扁平な体部を持つようである。甕Eは甕Dより少し口縁部が長く、あまり外傾せず外反する。SK2の(48・50・53・54)、SK11の(132)、包含層の(111)がある。甕Fは甕Eを大型にしものでSK2の(51)の1点だけである。口縁部は直立気味に外反する。体部は長胴である。

[埴] (第18図、図版14)

大きく外反する口縁部を持ち、体部中位に上方に屈曲した舌状の把手が付けられている。SK2の(59・60)があり、(59)は口縁部だけである。

[甕] (第18・21図、図版15)

短く外反する口縁と直線的に底部から外傾する体部を持つ。把手は舌状で体部下位の3分1付近に付けられている。SK2の(62)とSK4の(70)はやや大型品で、SK2の(63)は器高が低く、底部は平底で蒸気孔は楕円形を呈する。把手は付くようである。

(2) 須恵器

[坏] (第16・29・33図、図版12・13・17・18)

身は平均口径14cm、器高6cm前後で受部の立ち上がりは低く、著しく内傾している。外面底部はヘラ切り離しの後、未調整である。SK2の(16・17・19・20)やSK8の(96)は受部よりも口縁部の方が低い。坏蓋も平均口径14cm、器高6cm前後で天井はヘラ切り離しの後、未調整である。SK2の(3)は壺の蓋の可能性があり、SK2の(6)、包含層出土の(102・103)は握みを持つが欠損している。

[高坏] (第16・23・33図、図版13・16・19)

SK2の(18・23)、包含層出土の(106)は長脚の高坏で、SK2の(22)、SK5の(79)は低脚の無蓋高坏である。

[壺] (第16・23図、図版13・16)

SK2からは口径22cmの直口壺(21)の口縁部が出土している。口縁端部は内傾する面を持ち、頸部外面には3条の沈線が巡る。SK5の(86)は外傾する口頸部を持ち端部は断面が丸く肥厚する。体部は丸い。体部外面はタタキの上カキ目、内面は同心円の当て具の痕跡が残る。口径22cmでやや大型の壺である。(81)は偏壺と考えられるが提瓶の可能性もある。(80)は長頸壺の口縁部端部である。

2 中近世土器 (第33・42・56図、図版18~20)

ほとんどが包含層からの出土である。瓦器は小皿(114・115)が出土し、土師質土器も小皿(113・146~148)が出土している。またSK9からは(129)が出土しており遺構からの中世土器の出土はこの1例だけである。この他に東播系の須恵質の鉢鉢(152・153)、須恵質片口鉢鉢(154)がある。また備前甕の底部(150)、青磁碗(116・117・149)、唐津の鉢(118)、堺鉢鉢(155)が見られる。

3 その他 (第33・34・56図、図版18・19)

包含層からは縄文土器(138)が1点出土しており、後期の土器片のようである。石器としてはサスカイト製の無茎石鎌(122)と敲打器(128)がある。他は剝片である。

土製品としては土錘(119)が、鉄製品として鉄鎌(120)、刀子(121)などが出土している。

第3章 まとめ

今回の調査の結果、第1調査区と第2調査区との間、約100mについては、微地形としては谷の部分に相当する。このため検出された遺構群も、2つのグループに分けられるようである。

1 第1調査区

建物は調査区の中央で3棟検出された。いずれもほぼ同一方向を示している。SB1が最大の建物で、他の2棟が付属建物になる可能性が高い。また、他のピットの状況から建物が他に復元できる可能性が高い。

また、ここでの特徴的な遺構であるSK2とSK3の土坑は、上坑内から多くの土師器・須恵器を出土した。そして埋土に炭、焼土が混じっていることから火を使用したようである。SB1との切り合い関係からSB1廃絶後にSK2が掘り込まれている。

出土遺物から古墳時代終末期、飛鳥時代に相当するようである。飛鳥藤原京の土器編年では飛鳥II、陶邑編年ではII型式6段階に該当する。

2 第2調査区

建物は全部で5棟検出された。主軸方向からSB4・SB6とSB5・SB7・SB8の2つのグループにわかれるが前後関係は判らない。また、南側の1段下がった谷の部分には火を受けたピットが検出されている。

出土遺物が少なく時期決定は困難である。しかし、SB7の切り合うピットからは実測できなかったが中世土器が出土している。第2調査区の遺構は中世を中心とする可能性が高い。

3 最後に

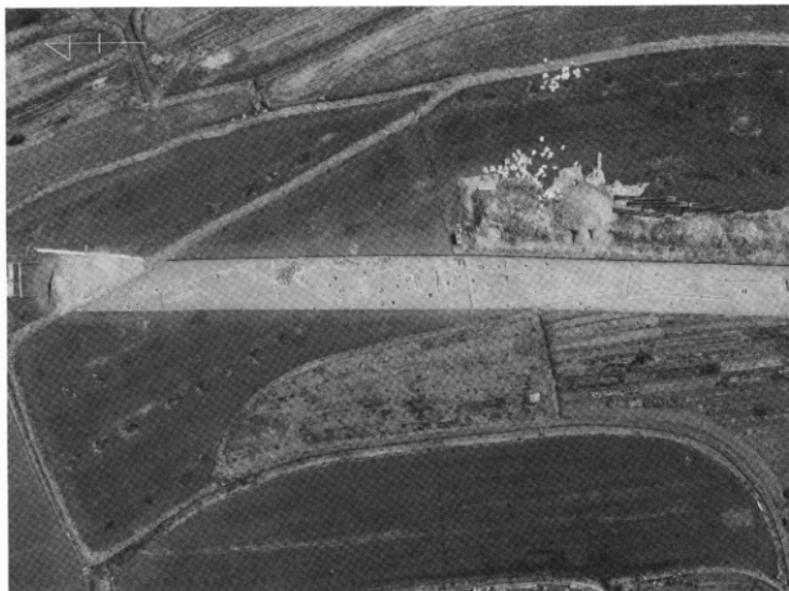
第1調査区の谷を挟んだ北側には小塩遺跡と加塩遺跡が位置する。加塩遺跡は第1調査区の時期よりも、須恵器では同じII型式でも3段階程度時期が遡る。また、小塩遺跡は第1調査区の時期が現在の所発見されていない。このため、この時期の集落がこの西浦遺跡に移動した可能性がある。

西浦遺跡及び小塩遺跡と加塩遺跡のある加賀田川から天見川の左岸の河岸段丘上には、川に向かって派生する小丘陵があり、その頂部に生活が営まれ、時代とともに集落が移動したのではなかろうか。

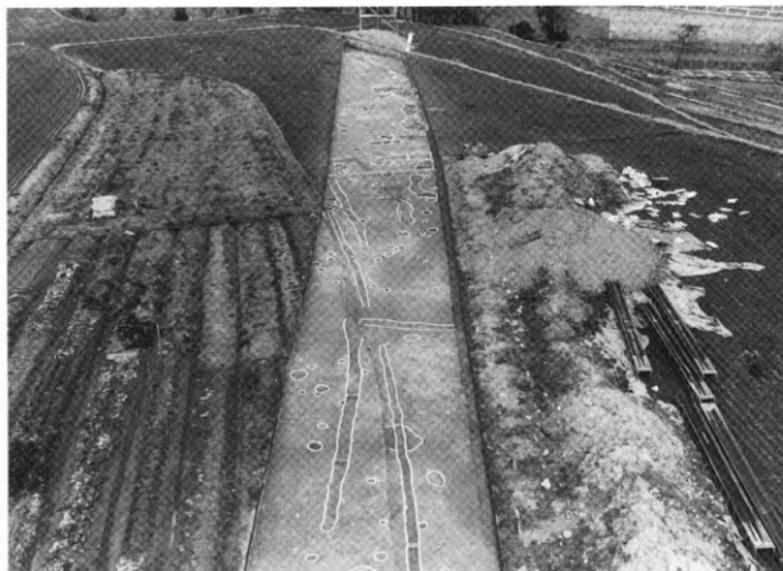
圖

版





調査区 全景



調査区 全景 (南から)



調査区 全景（北から）



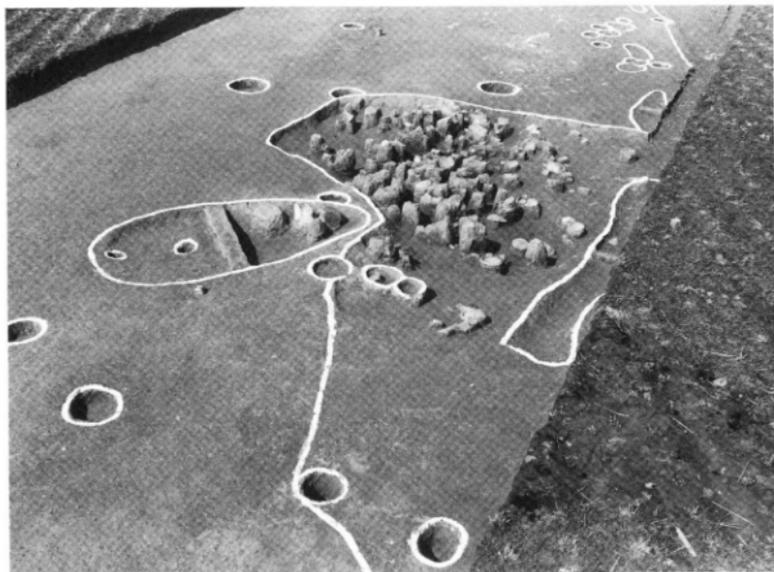
調査区 全景（北から）



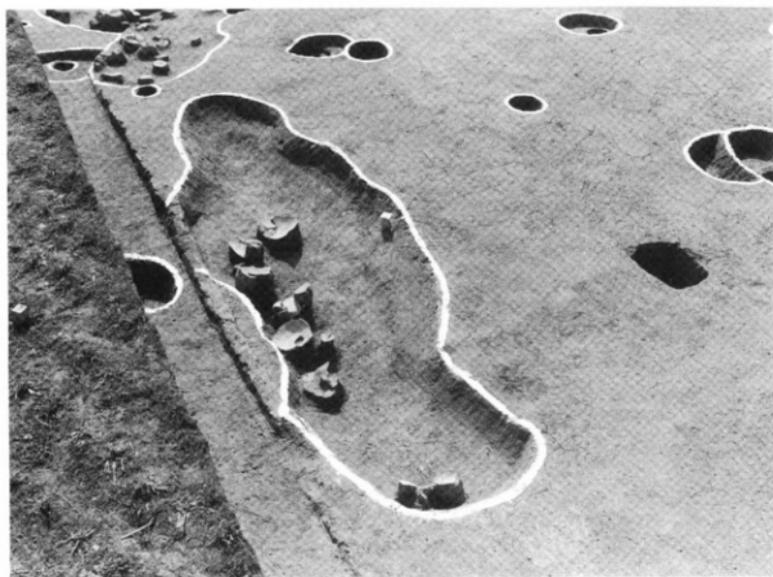
SB1 (南から)



SB2・3



SK 2・3 (南から)



SK 4 (北から)



SK5 (北から)



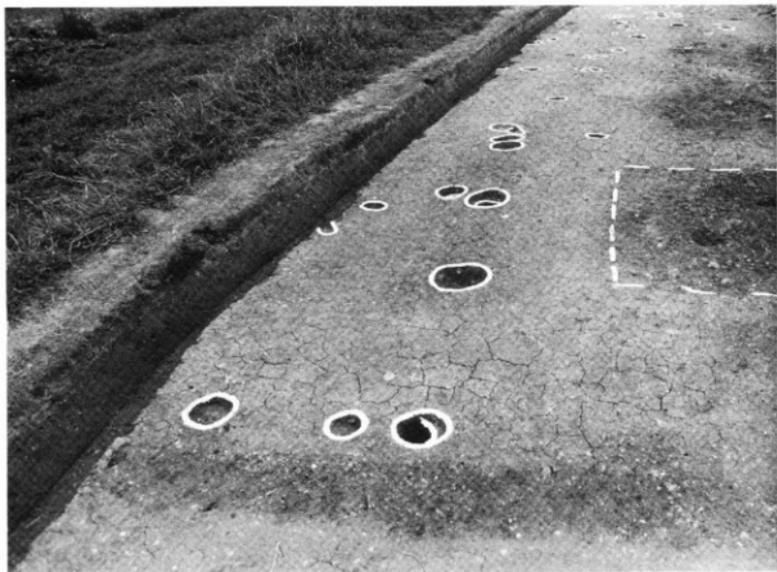
SK6・7 (東から)



調査区 全景



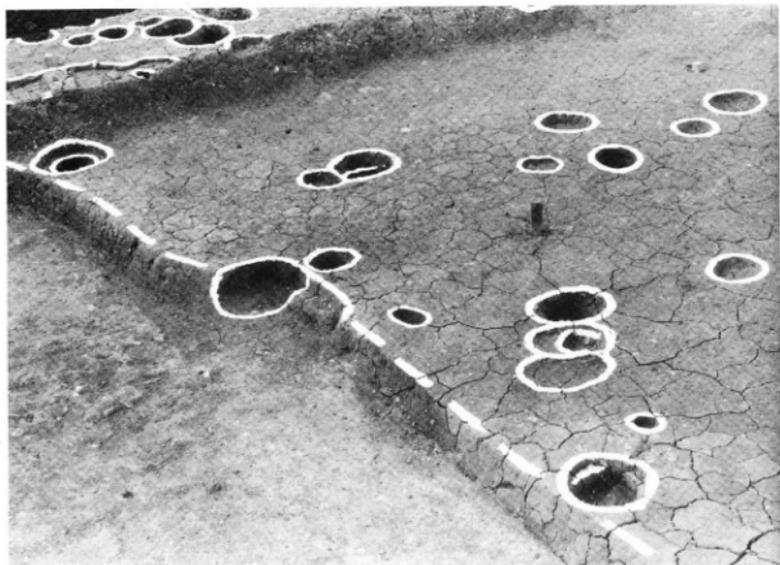
調査区 全景 (北から)



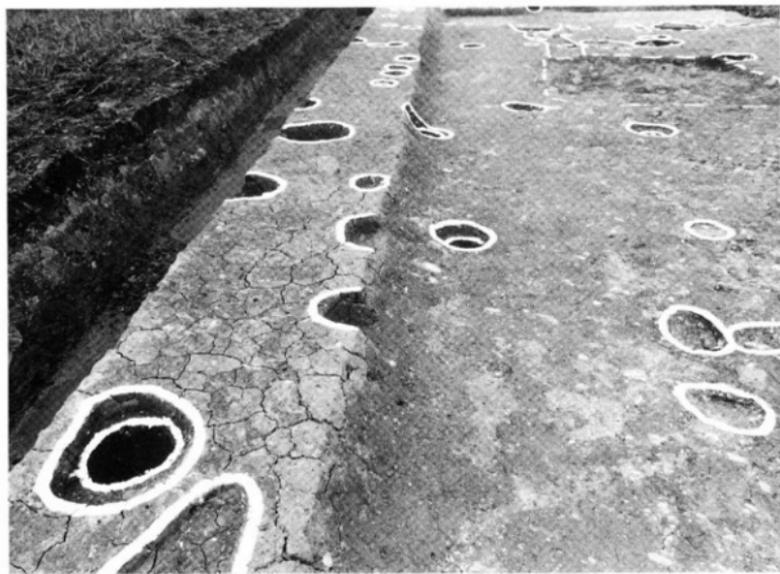
SB4 (北から)



SB6・7



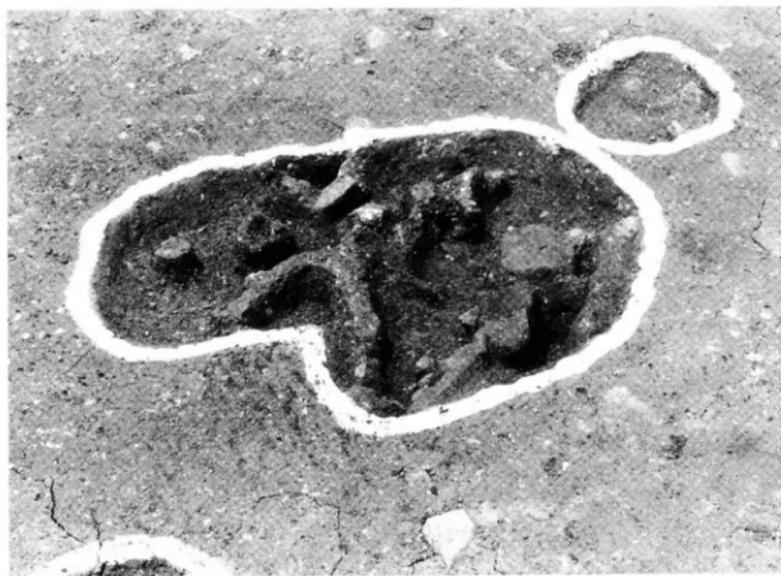
SB 6 (南東から)



SB 8 (南から)



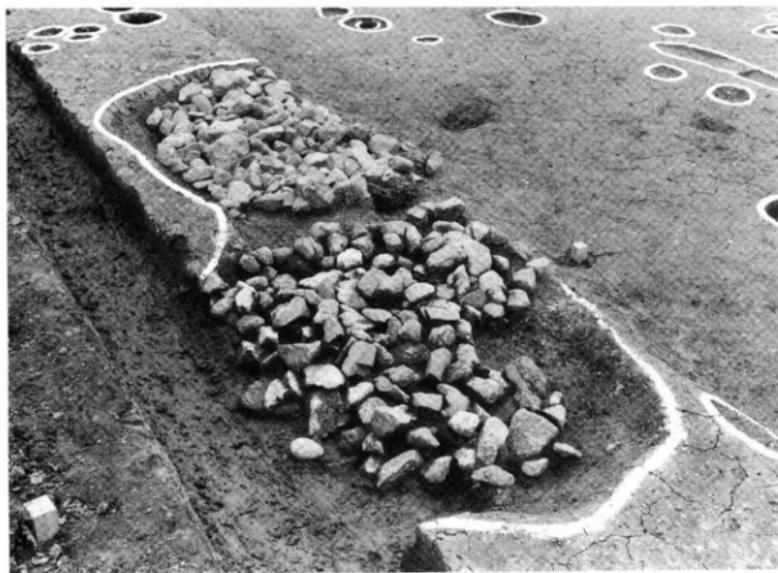
SK9・SX1 (北から)



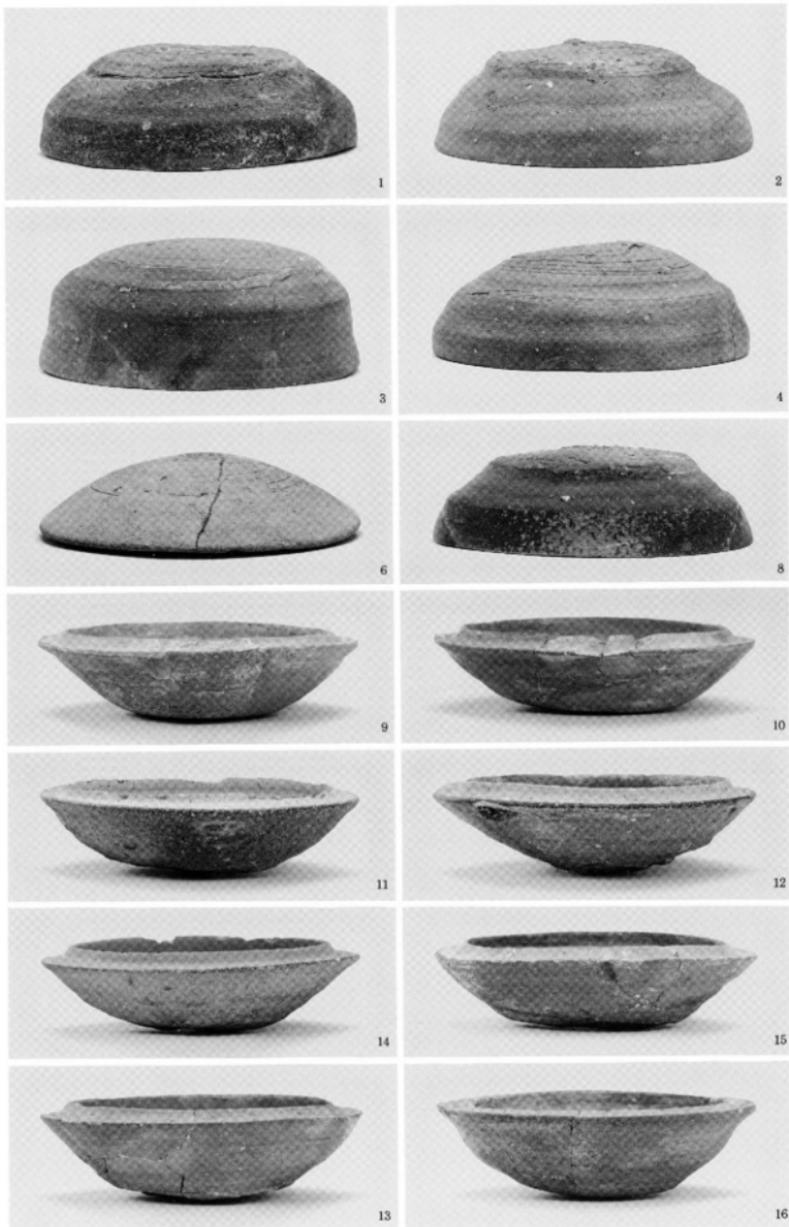
SK10 (北東より)

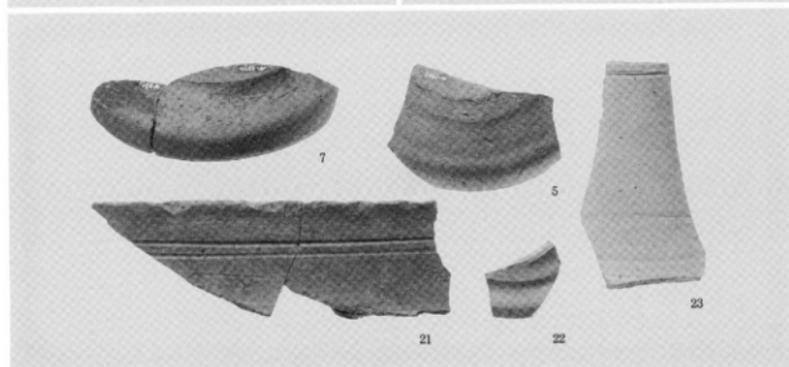
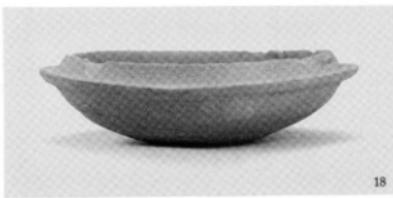


SN1 (北から)

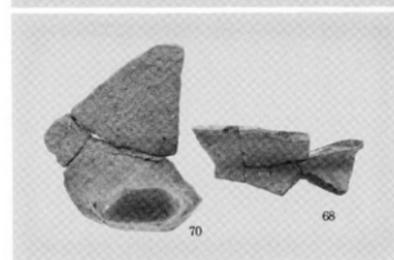
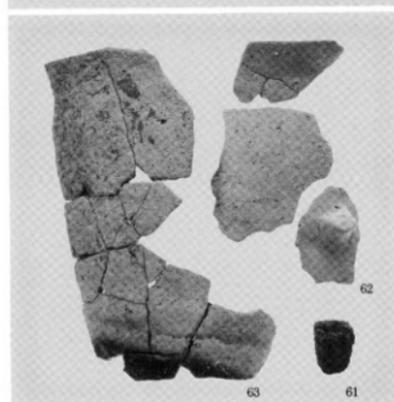
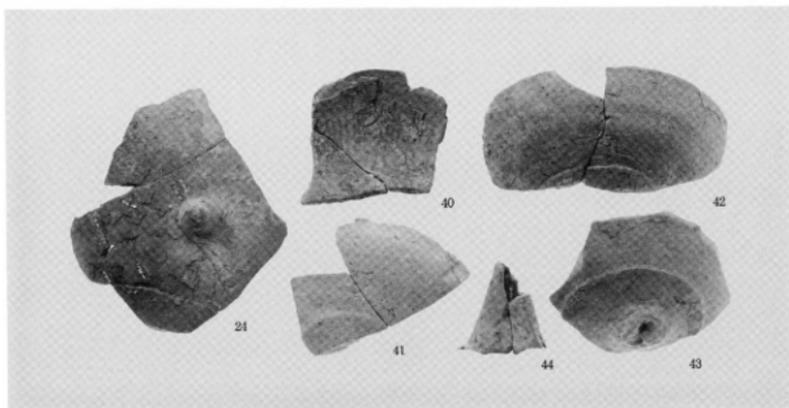


SU1 (南西から)

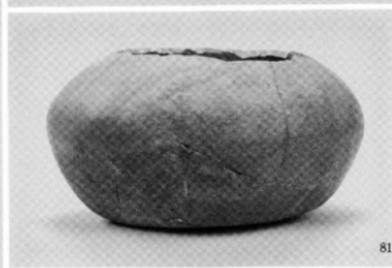
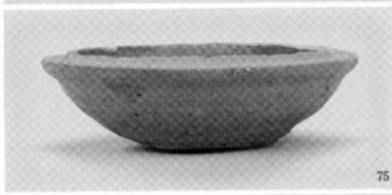
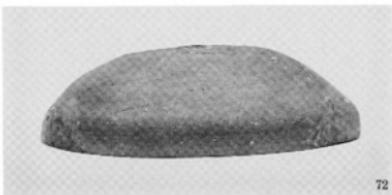
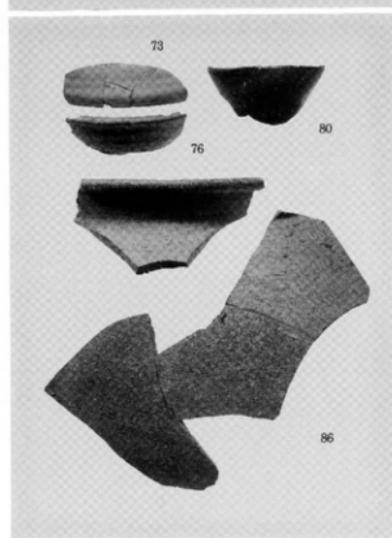






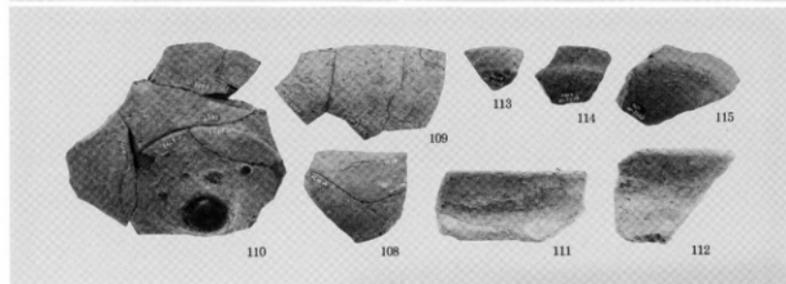
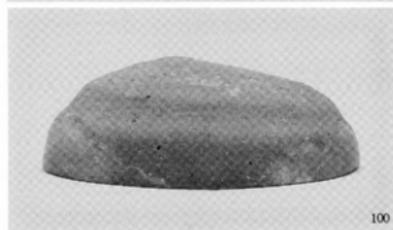
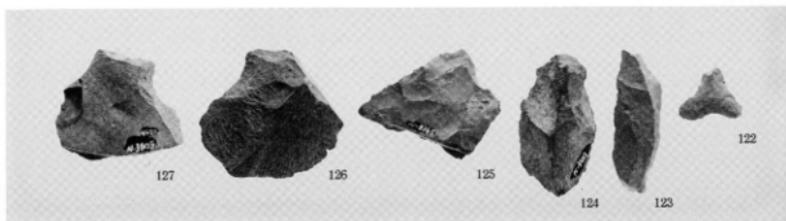


S K 2 (24・40~44・61~63)、S K 4 (64~70)

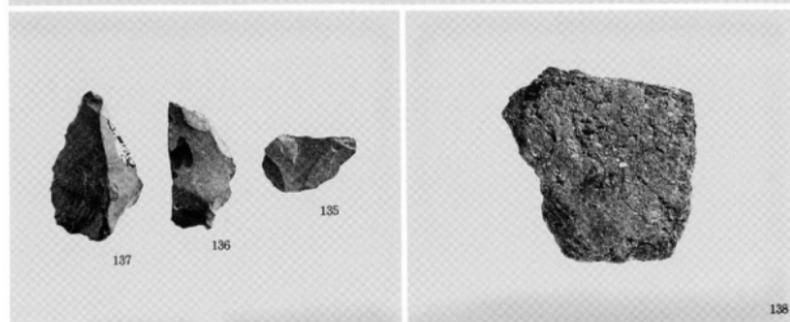
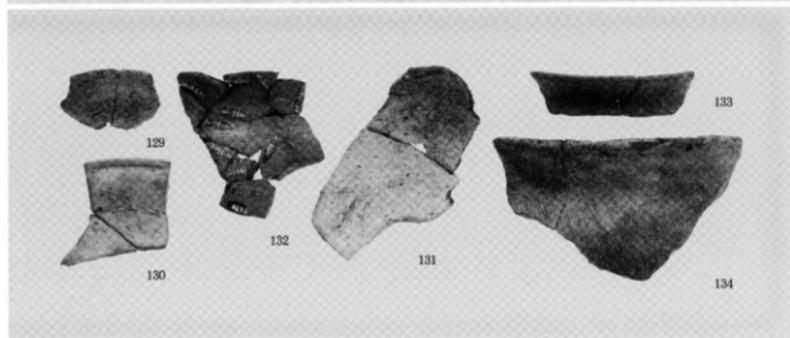
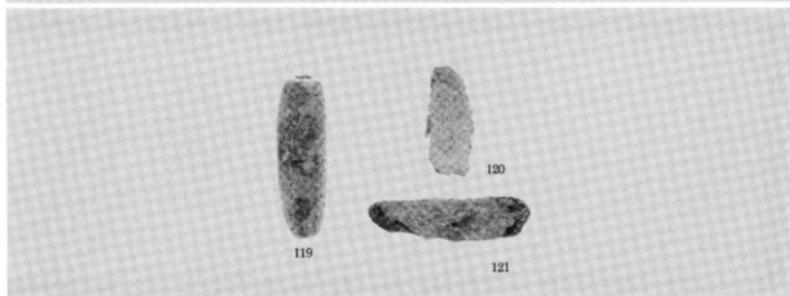
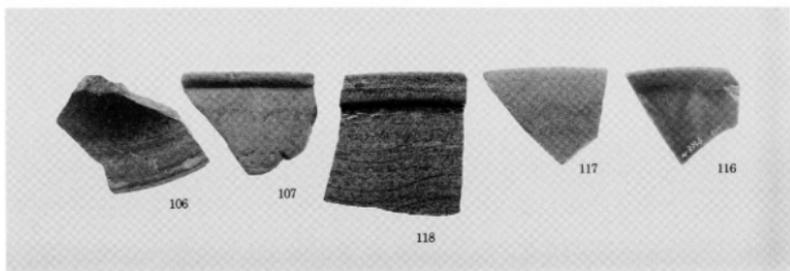




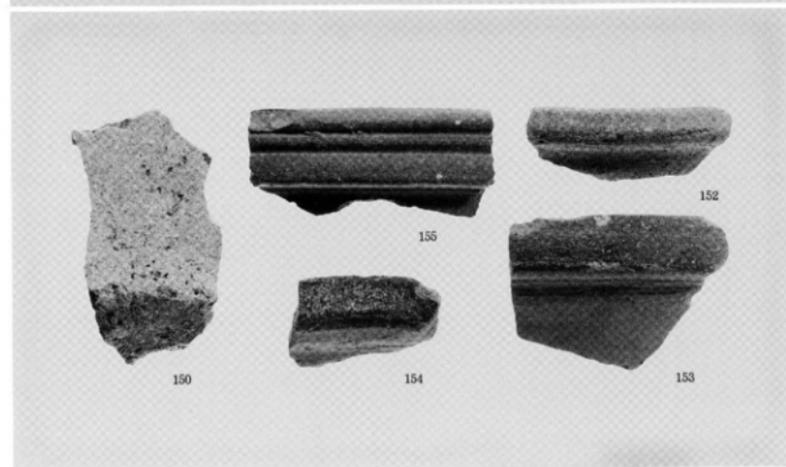
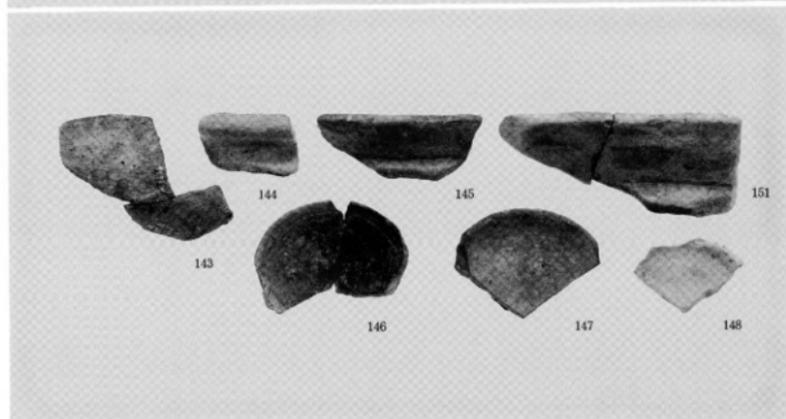
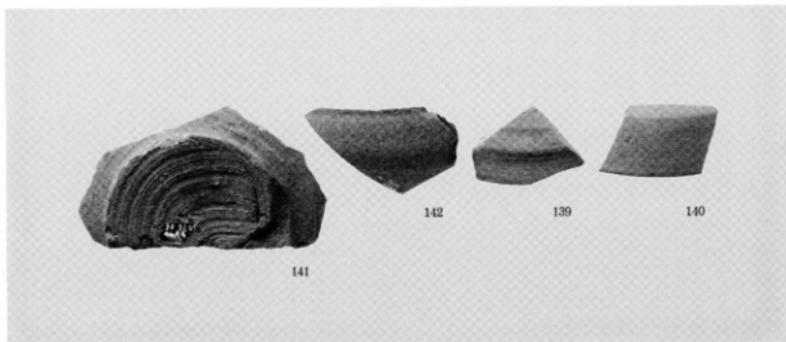
SK 6 (87~91)、SK 7 (92~95)、SK 8 (96)、SP 1 (97)、SP 4 (98)、SP 5 (99)



包含層 (100~105・108~115・122~128)



包含層 (106・107・116~121)、SK 9 (129)、SK 11 (130~132)、SU 1 (133・134)
包含層 (135~138)



報 告 書 抄 録

ふりがな	にしうらいせき
書名	西浦遺跡
副書名	河内長野市遺跡調査会報 IX
シリーズ名	河内長野市遺跡調査会報
シリーズ番号	IX
編著者名	尾谷雅彦 鳥羽止剛
編集機関	河内長野市遺跡調査会
所在地	〒586 大阪府河内長野市原町396-3 TEL 0721-53-1111
発行年月日	1995年3月30日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
にしうらいせき 西浦遺跡	おおさかふかやちながのし 大阪府河内長野市 かぶた 加貫田	27216	河12	34° 25' 30"	135° 34'	1992.2.19 } 1994.3.25	1600m ²	市道西浦線 道路改良工 事に伴う事 前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西浦遺跡	集落	古代 中世 近世	独立柱建物 溝 土坑 ピット 埋桶 集石	8棟 10条 15基 18基 1基 3基 縄文土器、石鎌 土師器 須恵器 瓦器、須恵質土器 土師質土器 備前、青磁器 唐津、堺播鉢 敲打器、土錘 鉄鐵、刀子 その他	

大阪府河内長野市

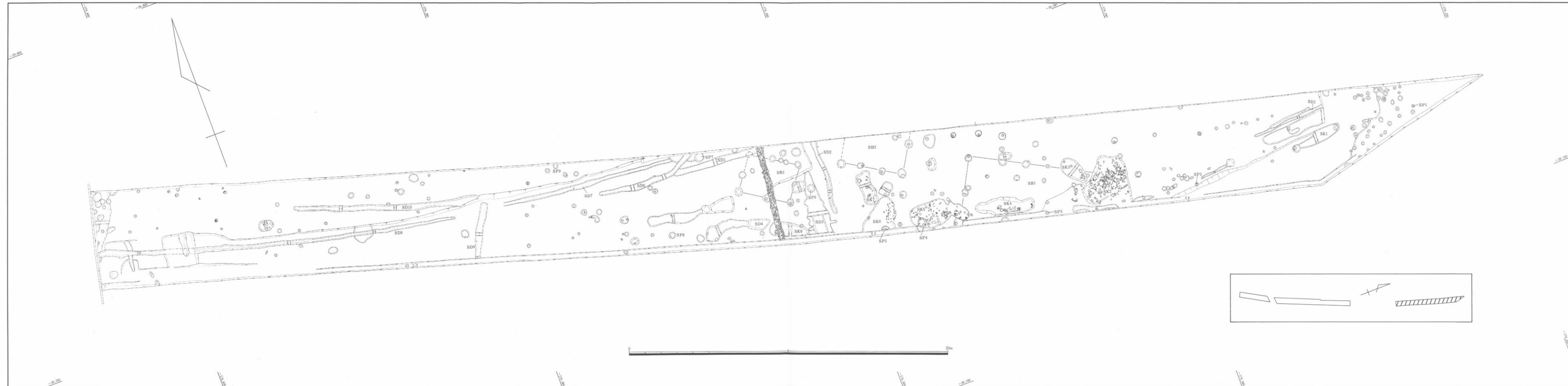
西 浦 遺 跡

1995年3月

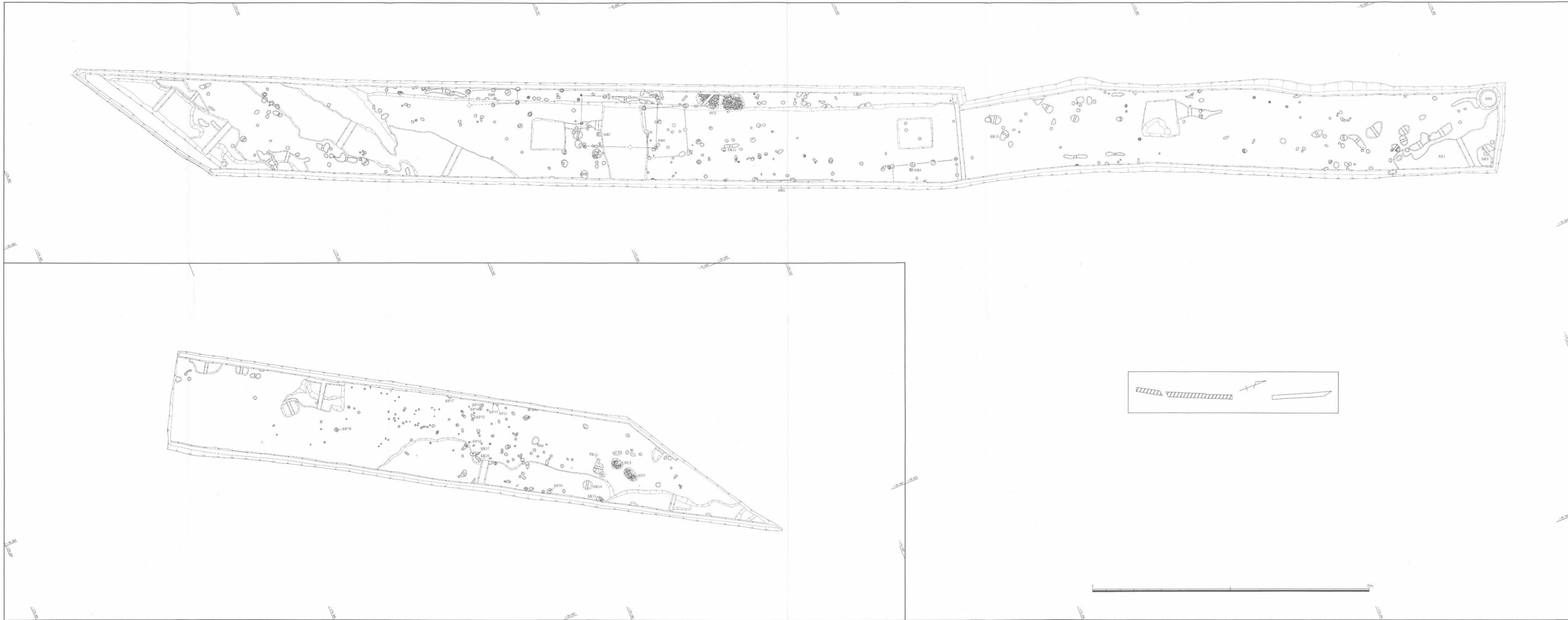
発行 河内長野市遺跡調査会

印刷 中島弘文堂印刷所





付図1 西浦遺跡第1調査区遺跡配置図 (1/100)



付図2 西浦遺跡第2調査区遺跡配置図 (1/100)

